尾坂遺跡（3）

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第56集

2018

国　土　交　通　省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

尾坂遺跡(3)
八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第56集
二〇一八
国土交通省　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

尾坂遺跡（3）

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第56集

2018

国　土　交　通　省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

尾坂遺跡遠景(東上空から)

尾坂遺跡近景(東上空から)

序

八ッ場ダムは、利水・治水・発電を行う多目的ダムとして吾妻川の中流に計画され、現在は吾妻郡長野原町を中心に工事が進められています。この建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、当事業団が平成６年度から実施しており、本年度で24年目を迎えています。

尾坂遺跡は調査開始当初の平成６年度から開始され、平成29年度までの約20年間に渉って、継続的に調査が実施されてきました。

調査の結果、縄文時代から近世にかけての多様な遺構、遺物が数多く検出されました。

今回は水没ラインに入る遺跡東縁部の調査を実施しました。特徴的な遺構、遺物としては、江戸時代では後期の天明三年(1783)の浅間山噴火に伴う、泥流に埋まった広大な畑が発見されました。これは江戸時代の生産活動を考える上で、様々な資料を提供することになり、この地域における畑作農耕を考える上で重要な発見となりました。

また、畑の下からは、さらに古い時代の土坑や遺物が数は少ないものの検出されており、この地が吾妻川流域における居住域として、古くから利用されていたことを示す発見となりました。

こうした多岐にわたる貴重な資料が得られており、本書が吾妻郡内及び群馬県の歴史を解明する上で末永く活用されることを願います。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、及び長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者のみなさまには多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

平成30年３月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理　事　長　　中野　三智男

例　　言

1　本書は、平成28・29年度の八ッ場(やんば)ダム建設工事に伴う尾坂(おさか)遺跡の発掘調査報告書である。

2　今回の発掘調査の範囲は、群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字尾坂　1165-6、1165-8、1167、1168-1、1168-2、1170-1、1170-2、1171-1、1171-2、1171-3、1172、1174-2、1174-4、1180-1、1187-1、1189-1、1189-3、1189-5、1177-1、甲1179番地である。

本遺跡の名称は、長野原町教育委員会が実施した分布調査報告書『長野原町の遺跡』1990　に基づく。

(遺跡ＩＤ414、県文化財システム遺跡番号　長野原町0201、八ッ場ダム関係埋蔵文化財遺跡番号　YD5－02)

3　発掘調査は、国土交通省関東地方整備局からの委託により、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

本遺跡の発掘調査時の組織体制は次の通りである。

期　　間　平成28年11月１日～平成28年11月30日

　　平成29年２月１日～平成29年２月28日

面　　積　1,940㎡

調査担当　笹澤泰史(主任調査研究員)・武井　学(調査研究員)

　　斎藤利昭(調査資料部長)

期　　間　平成29年４月１日～平成29年６月30日

　　平成29年11月27日～平成29年12月１日

面　　積　8,736㎡

調査担当　武井　学(調査研究員)・山本直哉(調査研究員)

4　発掘資料の整理および報告書の作成は、国土交通省関東地方整備局からの委託により、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理・報告書の作成期間・体制は次の通りである。

期　　間　平成29年10月１日～平成30年１月31日

編　　集　麻生敏隆

本文執筆　麻生敏隆　　遺構写真　笹澤泰史・武井　学・山本直哉　　遺物写真　麻生敏隆

遺物観察　麻生敏隆　　写真図版作成　齊田智彦・デジタル班　　保存処理　関　邦一・板垣泰之

5　本遺跡の発掘調査、及び整理作業については、下記の機関に協力を頂いた。

埋蔵文化財遺跡掘削工事　シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

遺構測量　株式会社測研　　遺構デジタル編集　株式会社測研

石器実測・トレース　シン技術コンサル株式会社

6　石材同定にあたっては飯島静男氏(群馬地質研究会)にご教示を得た。

7　出土遺物および遺構・遺物の図面・写真類は、一括して群馬県埋蔵文化財センターで保管の予定である。

8　本遺跡に関して、本報告以前にその概要が収録・公表されたのは下記の書籍である。

『年報36』 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2017、『遺跡は今25』 八ッ場ダム調査事務所　2017

9　発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏よりご協力・ご助言を得た。記して感謝の意を表したい。(敬称略)

国土交通省八ッ場ダム工事事務所　群馬県教育委員会　長野原町教育委員会　白石光男　富田孝彦　長野原区

凡　　例

1　本書で使用した国家座標は、世界測地系によるものである。本調査ではその数値をそのままグリッドとして使用した。

2　本書における遺構番号は算用数字で、調査時に付されたものをそのまま使用した。

3　遺構図･遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールを付すか、遺物番号に縮尺率を併記した。

遺構図　土坑・ピット　1：40　　道　1：40、1：200、1：400　　その他は明記

遺物図　土師器・須恵器・灰釉陶器・中近世陶磁器　1：3、1：4　　古銭・鉄製品　1：1、1：2

4　遺物番号は本文・挿図・表・写真図版と一致する。

5　畑等の面積は、畝欄の範囲の一単位の長軸と短軸を計測して、長軸×短軸で面積の算出をした。

6　挿図中の方位は調査時に使用したグリッドに準拠したものであるが、本文中の軸方向記載で用いた方位には、真北を用いた補正を行っている。

7　遺物観察表の出土位置の数字は調査時の取り上げ番号である。

8　遺物観察表の計測値には次の略語を使用した。

「底部径」→「底」　「重さ」→「重」　「口縁部径」→「口」　「長さ」→「長」　「厚さ」→「厚」

9　遺物の長さ・重量の計測にあたっては、製品、製造会社名、商品名、目量を表記する。

パーソナル電子天びん　株式会社エー・アンド・デイ　ＥＫ-i/ＥＷ-iシリーズ　計測0.1ｇ単位

カーボンファイバーノギス　株式会社田島製作所　BLACK-15 計測0.01cm単位

10　各地図について、使用した原図類の名称については、その都度記載している。

目　　次

口絵
序
例言　凡例
目次　挿図目次　表目次　写真目次
報告書抄録

第１章　調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第１節　発掘調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第２節　発掘調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　第３節　発掘調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　第４節　整理の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第２章　遺跡の環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　第１節　地理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　第２節　地形と地質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　第３節　歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　第４節　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第３章　検出された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　第１節　遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　第２節　江戸時代の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
　（１）遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
　（２）出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　第３節　中近世の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　（１）遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　（２）出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
第４章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
　第１節　畑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

遺構一覧表
遺物観察表
写真図版
奥付
付図

挿図目次

第１図　尾坂遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第２図　年度別調査区図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第３図　調査区の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第４図　段丘面分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第５図　周辺遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第６図　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第７図　尾坂遺跡Ａ区畑番号図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第８図　尾坂遺跡Ｂ区畑番号図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(折込)
第９図　尾坂遺跡Ｅ区畑番号図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第10図　尾坂遺跡Ｅ区道番号図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第11図　土坑(１)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
第12図　土坑(２)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
第13図　土坑(３)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
第14図　土坑(４)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
第15図　土坑(５)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
第16図　土坑(６)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
第17図　ピット(１)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
第18図　ピット(２)・19号焼土・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
第19図　Ａ区出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
第20図　Ｂ区出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
第21図　Ｃ区出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
第22図　Ｄ区出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
第23図　縄文土器出土分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第24図　近世陶磁器・在地土器出土分布図・・・・・・・・・・・・・39

表 目 次

表１　周辺遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
表２　遺構数一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
表３　遺構一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
表４　遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

写真目次

ＰＬ．１　１．Ａ区１面全景(南から)
２．Ａ区１面全景(北から)
３．Ａ区20号道全景(南西から)
４．Ａ区２面全景(南西から)
５．Ａ区400号土坑・１号壁セクション(南東から)
６．Ａ区401号土坑セクション(北西から)
７．Ａ区401号土坑全景(北西から)
８．Ａ区402号土坑セクション(北西から)
９．Ａ区402号土坑全景(北西から)
10．Ａ区403号土坑セクション(北西から)
ＰＬ．２　１．Ａ区404号土坑セクション(北から)
２．Ａ区404号土坑全景(北から)
３．Ａ区405号土坑セクション(南西から)
４．Ａ区405号土坑全景(北東から)
５．Ａ区406号土坑セクション(南から)
６．Ａ区406号土坑全景(南から)
７．Ａ区407号土坑セクション(南から)
８．Ａ区407号土坑全景(北東から)
９．Ａ区408号土坑セクション(南西から)
10．Ａ区408号土坑全景(南から)
11．Ａ区２号壁(東壁)セクション(西から)
12．Ａ区３号壁(東壁)セクション(西から)
ＰＬ．３　１．Ｂ区１面北部(南東から)
２．Ｂ区１面北西部(北西から)
３．Ｂ区１面北西部(南から)
４．Ｂ区１面中央部(北東から)
５．Ｂ区１面中央部(北から)
６．Ｂ区２面全景(南から)
７．Ｂ区２面北部(南西から)
８．Ｂ区２面北東部(北から)
ＰＬ．４　１．Ｂ区２面南部(南西から)
２．Ｂ区遺物出土状態(南から)
３．Ｂ区409号土坑セクション(南東から)
４．Ｂ区409号土坑全景(南東から)
５．Ｂ区410号土坑セクション(西から)
６．Ｂ区411号土坑セクション(南から)
７．Ｂ区410・411号土坑全景(西から)
８．Ｂ区412号土坑セクション(北東から)
９．Ｂ区412号土坑全景(南東から)
10．Ｂ区413号土坑セクション(北東から)
11．Ｂ区413号土坑全景(南から)
ＰＬ．５　１．Ｂ区414号土坑セクション(南西から)
２．Ｂ区414号土坑全景(南東から)
３．Ｂ区415号土坑セクション(南東から)
４．Ｂ区415号土坑全景(南から)
５．Ｂ区416号土坑セクション(西から)
６．Ｂ区416号土坑全景(東から)
７．Ｂ区417号土坑セクション(南東から)
８．Ｂ区417号土坑全景(南西から)
９．Ｂ区418号土坑セクション(南から)
10．Ｂ区418号土坑全景(南から)
11．Ｂ区419号土坑セクション(北東から)
12．Ｂ区419号土坑全景(北東から)
13．Ｂ区420号土坑セクション(南西から)
14．Ｂ区420号土坑全景(南から)
15．Ｂ区421号土坑セクション(西から)
ＰＬ．６　１．Ｂ区421号土坑全景(東から)
２．Ｂ区422号土坑セクション(南から)
３．Ｂ区423号土坑セクション(東から)
４．Ｂ区423号土坑全景(西から)
５．Ｂ区424号土坑セクション(南東から)
６．Ｂ区424号土坑全景(東から)
７．Ｂ区425号土坑セクション(南から)
８．Ｂ区425号土坑全景(南東から)
９．Ｂ区426号土坑セクション(南東から)
10．Ｂ区426号土坑全景(南から)
11．Ｂ区427号土坑セクション(南から)
12．Ｂ区427号土坑全景(南東から)
13．Ｂ区101号ピットセクション(北から)
14．Ｂ区102号ピットセクション(南西から)
15．Ｂ区103号ピットセクション(東から)
16．Ｂ区104号ピットセクション(南東から)
ＰＬ．７　１．Ｂ区105号ピットセクション(南東から)
２．Ｂ区106号ピットセクション(南東から)
３．Ｂ区107号ピットセクション(南東から)
４．Ｂ区108号ピットセクション(東から)
５．Ｂ区109号ピットセクション(南東から)
６．Ｂ区110号ピットセクション(南から)
７．Ｂ区111号ピットセクション(南東から)
８．Ｂ区112号ピットセクション(東から)
９．Ｂ区113号ピットセクション(東から)
10．Ｂ区114号ピットセクション(南から)
11．Ｂ区115号ピットセクション(東から)
12．Ｂ区116号ピットセクション(東から)
13．Ｂ区117号ピットセクション(南東から)
14．Ｂ区118号ピットセクション(南東から)
15．Ｂ区119号ピットセクション(北東から)
16．Ｂ区120号ピットセクション(北東から)

17. B区121号ピットセクション(東から)
18. B区122号ピットセクション(北西から)
19. B区123号ピットセクション(東から)
20. B区124号ピットセクション(南東から)
21. B区125号ピットセクション(南から)
22. B区126号ピットセクション(南東から)
23. B区127号ピットセクション(南東から)
24. B区128号ピットセクション(南西から)

P L. 8 1. B区19号焼土セクション(北から)
2. B区１号壁(西壁)セクション(南東から)
3. B区２号壁(西壁)セクション(南東から)
4. B区３号壁(西壁)セクション(東から)
5. B区４号壁(北壁)セクション(南から)
6. B区５号壁(東壁)セクション(西から)
7. B区６号壁(南東壁)セクション(北西から)
8. B区１号トレンチ全景(西から)

P L. 9 1. B区２号トレンチ全景(南から)
2. B区３号トレンチ全景(南から)
3. B区４号トレンチ全景(東から)
4. B区５号トレンチ全景(東から)
5. C区全景(南から)
6. C区西部(南から)
7. C区西部(西から)
8. C区東部(東から)

P L. 10 1. C区耕作痕(北から)
2. C区拡張部(西から)
3. C区拡張部(東から)
4. C区８号石垣全景(西から)
5. C区遺物出土状態(南から)
6. C区遺物出土状態(南から)
7. C区遺物出土状態(南から)
8. C区８号石垣・１号トレンチセクション(南から)

P L. 11 1. C区２号トレンチ全景(南西から)
2. C区３号トレンチ全景(東から)
3. C区４号トレンチ(北から)
4. C区５号トレンチ(北から)
5. C区６号トレンチ(西から)
6. C区７号トレンチ(東から)
7. C区８号トレンチ(東から)

P L. 12 1. D区１面北西部(東から)
2. D区１面北西部(北西から)
3. D区２面北西部(西から)
4. D区２面北西部(東から)
5. D区１面東部(東から)
6. D区２面北東部(東から)
7. D区１面南部(東から)
8. D区１面南部(東から)

P L. 13 1. D区428号土坑セクション(南西から)
2. D区428号土坑全景(北東から)
3. D区429号土坑セクション(北東から)
4. D区429号土坑全景(北東から)
5. D区430号土坑セクション(北から)
6. D区430号土坑全景(東から)
7. D区430号土坑完掘(南から)
8. D区431号土坑セクション(南東から)
9. D区431号土坑全景(南西から)
10. D区432号土坑セクション(北から)
11. D区432号土坑全景(北東から)
12. D区433号土坑セクション(東から)
13. D区433号土坑全景(東から)
14. D区434号土坑セクション(北から)
15. D区434号土坑全景(北西から)

P L. 14 1. D区435号土坑セクション(西から)
2. D区435号土坑全景(西から)
3. D区436号土坑セクション(東から)
4. D区437号土坑セクション(西から)
5. D区437号土坑全景(北西から)
6. D区438号土坑セクション(南西から)
7. D区438号土坑全景(南西から)
8. D区439号土坑セクション(北から)
9. D区439号土坑全景(北東から)
10. D区440号土坑セクション(南西から)
11. D区440号土坑全景(南から)
12. D区441号土坑セクション(北西から)
13. D区441号土坑全景(北西から)
14. D区129号ピットセクション(西から)
15. D区130号ピットセクション(南から)

P L. 15 1. D区131号ピットセクション(南から)
2. D区132号ピットセクション(南東から)
3. D区133号ピットセクション(南東から)
4. D区23号道全景(南から)
5. D区23号道セクション(東から)
6. D区１号壁セクション(南から)
7. D区１号トレンチ(南東から)
8. D区２号トレンチ(南東から)
9. D区３号トレンチ(南東から)

P L. 16 1. D区４号トレンチ(南東から)
2. D区５号トレンチ(南西から)
3. D区６号トレンチ(東から)
4. D区７号トレンチ(東から)
5. D区８号トレンチ(南から)
6. D区９号トレンチ全景(北から)
7. D区10号トレンチ全景(南から)
8. D区11号トレンチ全景(東から)

P L. 17 1. D区12号トレンチ全景(東から)
2. E区全景(西から)
3. E区全景(東から)
4. E区22号道(西から)
5. 調査準備風景(南から)
6. A区調査風景(西から)
7. A区１面畑調査風景(南から)
8. B区１面掘削作業風景(南から)

P L. 18 1. B区１面調査風景(北東から)
2. B区１面畑調査風景(南西から)
3. B区２面調査風景(北西から)
4. B区409号土坑調査風景(北から)
5. B区２号トレンチ調査風景(南から)
6. B区北西部埋め戻し作業風景(北から)
7. C区１面調査風景(西から)
8. C区１面西部調査風景(東から)

P L. 19 1. C区１面東部調査風景(北から)
2. C区１面東部畑調査風景(北西から)
3. C区２号トレンチ調査風景(西から)
4. C区５・６号トレンチ調査風景(北から)
5. D区表土掘削風景(東から)
6. D区南部表土掘削風景(東から)
7. D区北西部調査作業風景(東から)
8. D区北西部調査風景(東から)

P L. 20 1. D区南部23号道調査風景(南から)
2. E区１面掘削作業風景(北から)
3. E区調査風景(東から)
4. E区掘削状況(南西から)
5. E区40畑、24・25号道検出状況(南から)
6. E区１号トレンチ：5-3畑検出状況(南から)
7. E区２号トレンチ：5-3畑、24号道検出状況(西から)
8. E区３号トレンチ：5-4畑、24号道検出状況(西から)

P L. 21 A区出土遺物
B区出土遺物
C区出土遺物
D区出土遺物

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	おさかいせき　さん
書　名	尾坂遺跡（３）
副書名	八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	58
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	638
編著者名	麻生敏隆
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20180315
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	おさかいせき
遺 跡 名	尾坂遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざながのはらあざおさか
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字尾坂
市町村コード	10424
遺跡番号	0201
北緯(世界測地系)	363240
東経(世界測地系)	1383912
調査期間	20161101-20161130/20170201-20170228/20170401-20170731/20171201-20171207
調査面積	10,676㎡
調査原因	八ッ場ダム建設工事に伴う代替地造成工事
種　別	生産／その他
主な時代	縄文・中近世・江戸
遺跡概要	縄文－土器／中近世－土坑42＋ピット33／江戸－畑＋道６
特記事項	天明三年(1783)浅間山噴火に伴う泥流堆積物によって覆われた生産跡。
要　約	本書は八ッ場ダム建設工事に伴い平成28年度に発掘調査が行われた尾坂遺跡の報告である。吾妻川の左岸に形成された河岸段丘中位面上に位置し、南に開く緩やかな扇状地形である。標高は570～584.5mで、東側の栃ノ木沢と西側の谷地形に挟まれ、遺跡内には湧水点も存在する。現在の河床からの高さは約10～25mに位置する。検出された遺構・遺跡は天明泥流に覆われた畑や道など、中近世の土坑や、陶磁器や銭貨や煙管などの金属製品、縄文時代中期後半の土器である。江戸時代の畑や中近世の土坑42基、ピット33基、道６本、石垣２か所などを報告する。

第１章　調査の方法と経過

第１節　発掘調査に至る経緯

八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、建設省関東地方建設局と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、東吾妻町教育委員会が、その実施に関する協議を重ね、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長が、平成６年３月18日に「八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」を締結し、八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業の実施計画が決定された事によって開始される事となった。実施計画書に示された調査組織等の役割は、調査実施機関は群馬県教育委員会で、調査機関は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。

この協定をふまえて、同年４月１日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長により発掘調査委託契約を、同日に群馬県教育委員会教育長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により発掘調査受委託契約を締結し、平成６年度から八ッ場ダム進入路関連遺跡を調査箇所とする八ッ場ダム埋蔵文化財発掘調査が開始された。

その後、平成11年４月１日に「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書」が締結され、それ以降は調査実施機関を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に変更し、現在の調査体制に至っている。

さらに、平成17年４月１日に期間変更の協定書変更がなされ、平成28年度末までに第５回の変更を行い、継続されている。

尾坂遺跡は、平成６・７年度の立会・試掘調査の成果を踏まえた平成11年度の発掘調査が行われ、その調査内容は平成14（2002）年刊行の「八ッ場ダム発掘調査集成（１）」に収録された。平成18年度には川原畑地区代替地造成工事に伴う発掘調査が行われ、平成28（2016）年に「尾坂遺跡（２）」が刊行された。

遺跡全体で約18,000㎡が当初は対象であったが、工事に絡む関係で開始の時期を計４か年、５次に分割して実施した。各年度の期間、面積は平成12年度が９月から12月までの４か月の間に1,865㎡、平成13年度が７月からの２回で10,690㎡、平成16年度が４月から７月までの４か月間に1,130㎡、平成17年度が９月から12月までの４か月間の3,812㎡であり、合計で17,497㎡である。

そして、今回の発掘調査が、平成28年11月の１か月と、平成29年２月の１か月、平成29年４月～６月の３か月と、平成29年12月の約１か月を合わせた約６か月で、面積が10,676㎡である。

なお、各年次の調査範囲は第２図に表示したとおりである。

第１図　尾坂遺跡位置図（国土地理院５万分の１地形図「草津」使用）

これまでに、『八ッ場ダム発掘調査集成(１)』、『尾坂遺跡(２)』として２冊の報告書がそれぞれ刊行され、本報告書を『尾坂遺跡(３)』として刊行する。

第２節　発掘調査の方法

平成６年度から始まった八ッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査においては遺跡名称の略号、調査区(グリッド)の設定については「八ッ場ダム関係埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき実施されてきた。本報告でもこれに準じ必要箇所について記載する事とする。

発掘調査における遺跡番号は八ッ場ダム建設にかかわる長野原町の大字５地区(１．川原畑、２．川原湯、３．横壁、４．林、５．長野原)ごとに番号を付与し、八ッ場ダム建設に伴う略称「YD」の後ろに続けた。略称、地区番号の次にはハイフン(－)を記入し、その次に各地区内に所在する遺跡に対して発掘調査順に通し番号を付与して遺跡略称とした。尾坂遺跡の場合は、(YD5－02)である。

調査区(グリッド)については、第２図で示すように八ッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財対象地域内を国家座標(2002年４月改正以前の日本測地系)の日本平面直角座標Ⅸ系を使用し、吾妻郡吾妻町(現東吾妻町)大柏木の東部付近を基点(Ｘ＝58000.00、Ｙ＝－97000.00)とした。その後、世界測地系に変更した。

この基点から国家座標に準じて西・北方向に座標を設定した。八ッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財対象地域内は基点から西へ10㎞、北へ６㎞の広範囲に所在する事から１㎞四方の大区画(地区と呼称)を西へ10区画、北へ６区画の計60区画を設定した。

この大区画の内部を100ｍ四方の中区画(区と呼称)に区分し、南東角から南列を西に１区、２区、10区とし、次の列を11区～20区のように100区まで設定した。

この中区画の内部は４ｍ四方の625個の小区画に細分した。この細分した区画は南東角を基点に西へはＡ～Ｙまでのアルファベット、北へは１～25までの数字を付与して各区画を区分した。すなわち、尾坂遺跡の所在する29地区53・54・62・63・64・65・72・73・74・75・76・82・83・84・85・86区の基点となる小区画は29地区62区Ａ－１と呼称される事になる。

この小区画を基にして遺構図測量、遺物取り上げ、旧石器時代等の試掘調査を実施する際の基準として使用した。

第３節　発掘調査の経過

尾坂遺跡の発掘調査は工事工程の関係から、２か年にまたがるが継続する形ではない事から、先行して発掘調査する箇所の表土掘削を随時開始する事となった。そのため、その排出土については周辺の場所に一時盛り土保管場所として対応し、その後は発掘調査が終了した場所を随時置き場にした。また、発掘調査は基本的に以下の調査方法で行われた。

１．掘削機(バックホー)による基本土層の第Ⅰ層の天明泥流層の暗褐色土層の掘削を行う。

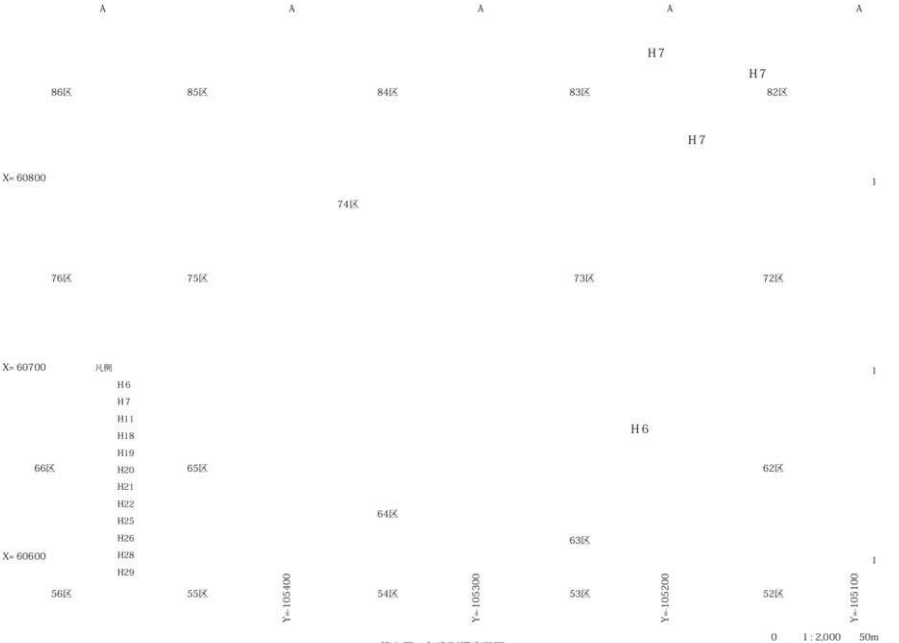
２．第Ⅰ層の中近世遺構確認・検出面、及び第Ⅲ層の平安時代確認・検出面層、さらにその下位からの縄文時代遺構は安全に留意しながらの重機と人手を併用して遺構確認作業を行い、個々の調査を行う。(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ面)

３．遺構調査終了後、84区を中心に基本土層の第Ⅴ層から下位の地層に対しての試掘を実施し、より古い時代の遺構確認作業を行った。(Ⅵ面)

検出した遺構については平面、土層観察断面等の測量、写真撮影による記録を作成したが、遺跡全体図や遺構個別図の測量は委託して作図を行った。

遺跡全景や遺構個別写真等の記録写真の撮影には中型と小型カメラを併用して、基本的に６×７版白黒と35㎜のカラー・白黒(モノクロ)兼用デジタルカメラで行い、遺構全景の撮影にはモニタリングカメラ、ローリングタワーを場合によって併用し、各段階での全体写真の撮影にはラジコンヘリ(ドローン)を使用して、上空からの航空写真や高所からの俯瞰写真を撮影した。

各地区共に、すべての作業が終了後に埋め戻し作業を行い、工事側への区画の引き渡しをした。


A
A
A
A
A
H7
H7
H7
86区
85区
84区
83区
82区
X=60800
74区
76区
75区
73区
72区
X=60700
凡例
H6
H7
H11
H18
H19
H20
H21
H22
H25
H26
H28
H29
H6
66区
65区
62区
64区
63区
X=60600
56区
55区
54区
53区
52区
Y=105400
Y=105300
Y=105200
Y=105100
0
1:2,000
50m

第2図　年度別調査区区

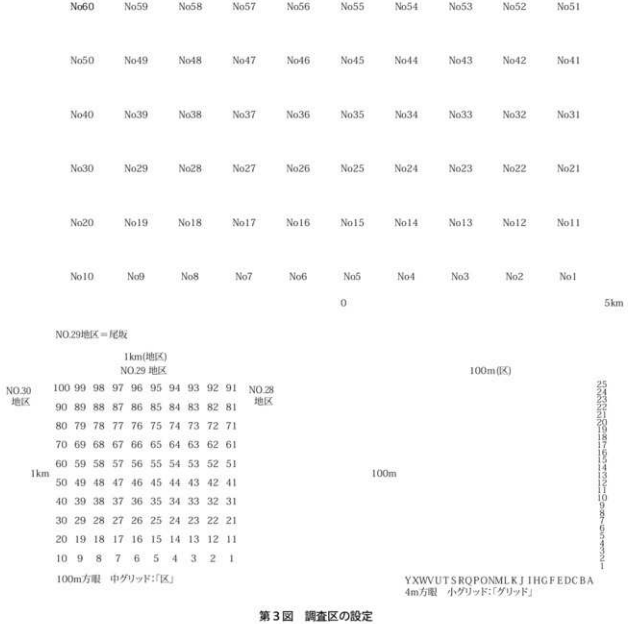
第４節　整理の方法と経過

尾坂遺跡の整理作業は、前回の報告では平成25年の11月から平成26年の３月までの５か月、平成26年１月から３月までの３か月、平成26年４月から平成27年３月までの12か月、平成27年の５月から平成28年の３月までの11か月という、平成25・26・27年度の３つの年度に跨る変則的な延べ31か月の計画で実施され、『尾坂遺跡（２）』が刊行された。

今回の報告では、平成28年11月の１か月と、平成29年２月の１か月、平成29年４月から６月の３か月と、平成29年12月の１か月を合わせた６か月分の発掘調査の成果を『尾坂遺跡（３）』として刊行をすることとなった。平成29年10月から平成30年１月までの４か月の期間で整理作業を実施した。

まず、土器や石器・石製品などの遺物については、外部発注による洗浄・注記などの基礎整理を既に行っていたために、洗浄・注記の有無の確認、取り上げ番号などのチェックなどを行った。

次に、遺構別・層位別・地点別の分類・区分けの後に接合・復元作業を開始し、実測個体の選び出しと実測・



第３図　調査区の設定

トレース作業を行った。さらに、図面類については原図全体の確認・台帳化と、使用原図の選び出しと鉛筆によるトレース素図とトレース図作成を実施した。また、出土した遺物の図面上での位置の確認などを行った。そして、仕上がりの確認とともに、レイアウトの作成、遺構や遺物、それに関連する資料の図版作成を行った。

写真関係では、現場で撮影したデジタル35ミリと６×７の個々の白黒写真について、出土状態など写真の種類などの確認、記録カード・台帳化を行った。特に、デジタルは保存用と活用用の２種類への振り分け編集作業を実施し、報告書刊行後の利用に備える準備をした。

遺物は選び出し個体の写真撮影から行った。これらの作業がほぼ終了した時点で、レイアウトの作成、遺物・遺構・写真図版の作成を開始した。

同時に、報文原稿については整理担当者を中心に執筆したが、一部については発掘調査担当者や各時代・各遺構・遺物を専門分野とする職員らの助言・協力を得た。

これらの作業をすべて行い、報告書作成の作業が終了し、印刷工程を経て刊行となった。
この整理作業にあたっては、測量した遺構図および撮影した写真は(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団資料管理マニュアルに従って基礎整理を実施した。

また、出土した遺物は土器と石器については発掘調査終了までの時点で外注で洗浄・注記を行い、今回の整理作業まで八ッ場ダム調査事務所で保管していたが、年度間の基礎整理の進捗状況の差異による手直し・追加が生じた。

なお、金属器・金属製品については整理作業時に図の作成、写真撮影が可能な状態になるように保存処理を行い、整理作業後は本部にて保管する予定である。

遺跡の整理作業の問題点としては、まず遺物の洗浄の際に鉄製品や遺物への漆などの付着物の有無を充分に確認・選別しておく必要がある。また注記に際して注記箇所の指定の問題がある。

尾坂遺跡発掘調査日誌抄録

平成28年
10月17日(月)　表土掘削開始。
10月21日(金)　安全対策。
10月24日(月)　１面目遺構確認。
11月１日(火)　土山整形、１面目泥流除去作業、排水作業、空撮準備。
11月２日(水)　１面目遺構精査、空撮。
11月７日(月)　２面目確認用トレンチ掘削及び精査。
11月８日(火)　１面目南西拡張部　表土掘削、遺構確認、遺構精査。
11月９日(水)　２面目確認用トレンチ　写真撮影。
11月10日(木)　１．５面目２ｍ×２ｍグリッド内の耕作痕確認。
11月15日(火)　２面目拡張部　確認用トレンチ　遺構確認作業。
11月18日(金)　調査終了。

平成29年
４月４日(火)　プレハブ予定地の整地作業。
４月５日(水)　環境整備作業。
４月10日(月)　A区(２面目)遺構確認、遺構精査。
B区北東(１面目)表土掘削、遺構確認。
B区南東(２面目)表土掘削。
４月12日(水)　B区北東(１面目)遺構精査。
４月13日(木)　A区(２面目)全景写真撮影。
B区南東(２面目)遺構確認。
４月17日(月)　A区埋め戻し開始。
B区北東(１面目)全景写真撮影。
D区範囲測量。
４月19日(水)　A区埋め戻し完了。
４月20日(木)　B区北東(２面目)遺構確認、遺構精査。
D区環境整備作業。
４月21日(金)　B区南西(１面目)表土掘削、遺構確認、遺構精査。
４月24日(月)　D区(１面目)表土掘削。
４月26日(水)　D区南(１面目)表土掘削。
４月28日(金)　B区南西(１面目)空撮準備。
５月２日(火)　B区(２面目)遺構確認。
D区(１面目)遺構確認。
５月８日(月)　B区(２面目)表土掘削。
５月12日(金)　D区(２面目)トレンチ調査。
５月17日(水)　B区(２面目)遺構精査。
D区(１面目)埋め戻し、空撮。
５月18日(木)　D区(２面目)表土掘削、遺構確認、遺構精査、埋め戻し。
５月19日(金)　B区(２面目)写真撮影。
５月22日(月)　B区(２面目)トレンチ調査。
５月23日(火)　B区埋め戻し。
５月29日(月)　B区(１面目)表土掘削。
５月30日(火)　D区(２面目)埋め戻し。
５月31日(水)　B区(１面目)遺構確認。
D区(２面目)埋め戻し完了。
６月６日(火)　B区北西(２面目)表土掘削、トレンチ調査。
６月７日(水)　B区北西(２面目)写真撮影。
６月８日(木)　B区北西(２面目)埋め戻し。
６月９日(金)　B区北西(２面目)埋め戻し完了。
11月27日(月)　保安林部分の環境整備、調査範囲測量。
11月28日(火)　調査範囲撮影、過年度調査範囲測量。
11月29日(水)　トレンチ掘削。
11月30日(木)　トレンチ精査、写真撮影。
12月１日(金)　埋め戻し、調査終了。

第２章　遺跡の環境

第１節　地理

吾妻郡長野原町は群馬県の西部、長野県との県境に位置する浅間山の北東に位置する。

行政区画としては、東は吾妻郡東吾妻町(旧吾妻町)、北は同郡中之条町(旧六合(くに)村)、北西は同郡草津町、西は同郡嬬恋(つまごい)村、南は長野県軽井沢町、南東は高崎市(旧倉渕(くらぶち)村)にそれぞれ接する。

周囲は標高1,000m～1,800m級の山々が連なり、南東部の高崎市との境に鼻曲(はなまがり：標高1,655m)と浅間隠(あさまかくし：標高1,756.7m)、東の東吾妻町との境に高間(たかま：標高1,341.7m)、西部に浅間隠・菅峰(すがみね：標高1,473.5m)・高間・笹畷(ささとや：標高1,756.7m)、北部に吾嬬(かづま：標高1,181.5m)・薬師(やくし：標高974.4m)等の山々が存在する。

河川では、吾妻郡嬬恋村大字田代と長野県との境界に位置する鳥居峠(とりいとうげ：1,362m)付近から流れ出す吾妻川が東流し、それに万座川や白砂川、それに熊川等の小河川が南流、あるいは北流して、それぞれ吾妻川に合流する。

主な集落は吾妻川の河岸段丘上にある。吾妻川の谷は長野原地区付近ではその幅がやや広く、河岸に何段かの河岸段丘が発達しているが、川原湯地区より東では基盤の第三紀層を刻み込んで、風光明媚な吾妻渓谷を形成している。

本遺跡の所在する長野原地区は、周囲を山々に囲まれた東西に細長い地形を呈し、鳥居峠附近から流れ出す吾妻川の左右両岸に段丘が形成されているものの、山間地特有の河川の蛇行により主に右岸側のみが幅が狭くなっており、一部では渓谷を作り出している。本遺跡が立地する段丘は中位面から下位面にかけてであり、これらの面に関東ロームがほとんど堆積していない事から、吾妻川が離水して段丘面が形成された時期は完新世の時期と考えられる。この緩やかな傾斜の段丘やその上位の丘陵上に縄文時代から平安時代にかけての遺跡がいくつも存在しており、現在でも住宅地や水田、畑として利用されている。

参考文献
長野原町誌編纂委員会編　1976 『長野原町誌』上

第４図　段丘面分布図(国土地理院発行2.5万分の1地形図「長野原」を使用)

第２節　地形と地質

長野原町の地形・地質に大きな影響を与えたのは、現在も噴火活動を続けている浅間火山で、町域の北西部、長野県境に位置し、黒斑・仏岩・前掛山・釜山の４つの火山体で構成される標高2,568mの成層火山である。約21,000年前の黒斑火山の噴火では、岩屑流と「応桑泥流」と呼ばれる泥流が発生している。この泥流堆積物は、当時の河床を数十mの厚さで埋めている。その後にこの堆積物によって吾妻川の浸食が進み、両岸に最上位と上位の段丘面が形成されている。浅間山は、この後も多くの火山堆積物を堆積させているが、特に町域では浅間－草津黄色軽石(As-YPk、10,500 ～ 11,500年前)の堆積が顕著である。また、1783（天明３）年の前掛山の噴火により発生した火砕流は吾妻川に流れ込んで泥流となり、今も「天明泥流」として下位段丘や中位段丘を数m～数十mの厚さで覆っている。

平地は吾妻川に沿って僅かに分布しており、階段状の河岸段丘の上位にある。ここはこの地区の主な居住区であり、農業生産の中心地にもなっている。

この段丘は、吾妻川からの比高の差を基準に下位段丘・中位段丘・上位段丘・最上位段丘の４つに分類されている。各段丘面の現在の吾妻川からの平均的な比高は、下位段丘で約10 ～ 15m、中位段丘で約30m、上位段丘で約60 ～ 65m、最上位段丘で約80 ～ 90mとなっている。このうちの上位・最上位の段丘面は約21,000年前に噴出した応桑泥流堆積物を基盤とし、その上に重なる関東ローム層中には、約11,000年前に噴出したと考えられるAs-YPkが最上位面で約２m堆積している。

長野原地域では、集落の大部分が中位段丘面に存在する。長野原一本松遺跡の所在する一本松地区が上位段丘面に、尾坂遺跡の所在する尾坂地区が中位段丘面に、吾妻川左岸の川沿いの低い一部が下位段丘面に相当する。

第３節　歴史

この地域の歴史については、既に長野原町教育委員会の富田氏によって詳細な記述がなされており、それを参考に主として林地区を中心に記述する事とするが、各時代の主要な遺跡については周辺地区をも含めて説明する事とする。

長野原町教育委員会が八ッ場ダム建設計画に先行して、1987（昭和62）年から３か年にわたり実施した遺跡分布調査において、183か所の埋蔵文化財包蔵地が確認された。これに石造物などの指定文化財や名勝・天然記念物などを含めると文化財総数は199を数える。1994(平成６)年以降にハッ場ダム建設に係わる発掘調査の進展に伴い包蔵地はさらに増えている。

旧石器時代　現在までにこの時期の遺跡は確認されていない。ただし、遺構外ながら柳沢城跡で細石器文化に伴うと考えられる珪質頁岩の削器が１点出土している。長野原一本松遺跡でも尖頭器が出土している。

縄文時代　縄文時代になると遺跡数は増大する。この時期の遺跡の主なものとして本遺跡以外に、石畑遺跡、坪井遺跡、長畝Ⅱ遺跡、暮坪遺跡、立馬Ⅱ遺跡、横壁中村遺跡、長野原一本松遺跡、西久保Ⅰ遺跡、幸神遺跡、勘場木遺跡、向原遺跡、滝原Ⅲ遺跡等があげられる。草創期の遺跡として表裏縄文土器が出土した石畑岩陰遺跡が著名であるが、横壁勝沼遺跡からも表採ながら草創期の槍先形尖頭器が出土している。早期は立馬遺跡で初頭の撚糸文期の１棟、前期では坪井遺跡で初頭の花積下層式期の１棟、暮坪遺跡で前期前葉の二ツ木式期の２棟、前期中葉～後葉が楡木Ⅱ遺跡で10棟、中期は立馬Ⅱ遺跡で初頭から前半の五領ヶ台式～阿玉台式の９棟、幸神遺跡で完形の阿玉台式土器を埋設した土坑１基が検出されている。中期後半が最も多く横壁中村遺跡と長野原一本松遺跡では共に250棟以上の大規模な集落を形成していた事が判明している。この他に坪井遺跡の19棟、幸神遺跡２棟、勘場木遺跡１棟、長畝Ⅱ遺跡２棟が検出されている。後期に至っても横壁中村遺跡と長野原一本松遺跡でも引き続き集落が形成されており、他に向原遺跡で５棟検出されている。晩期は川原湯勝沼遺跡で２個の土器を埋甕した土坑が検出され、再葬墓の可能性が指摘されている。

弥生時代　この時期の遺跡は極めて希薄であり、前期は横壁中村遺跡で樫王式の甕を埋設した土坑が検出されて、再葬墓の可能性が指摘され、楡木Ⅲ遺跡で土器が集中して出土している。中期後半は立馬Ⅰ遺跡で土器棺墓が１基と竪穴住居が２棟、後期の樽式は二社平遺跡で破片が多数出土している。

古墳時代　1938(昭和13)年に編纂された『上毛古墳総覧』によれば、長野原町には２基の古墳が存在するとされて

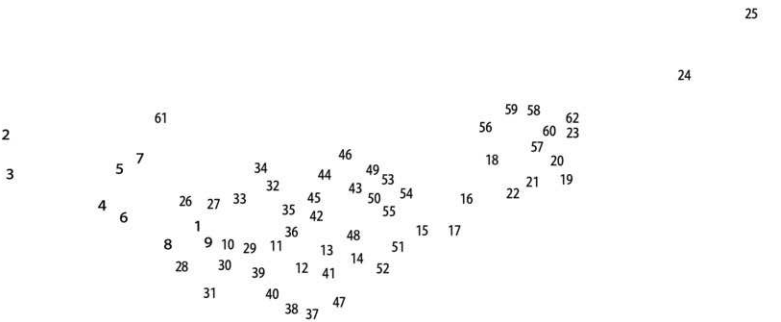
おり、大津の鉄塚と与喜屋の五輪塚が該当するが、現在までに発掘調査によって確認されたものはひとつも無く、現時点では東吾妻町の岩島地区が西限である。集落関係では林宮原Ⅱ遺跡で１棟、下原遺跡での１棟が２例目であり、遺物は1976（昭和51）年に刊行された『草津温泉誌』第壱号にも長野原町大津の金丸製材所の西地点で出土した壺型土器と高坏が掲載されており、これが吾妻川流域の最奥の古墳時代の資料として紹介されている。これらからみて、遺跡の数が極端に少なく、それぞれの規模も小さい事から古墳が構築される土台がなかった可能性が高いと言えよう。

奈良・平安時代　10世紀ごろに編集された『和名類聚抄（わみょうるいじゅうしょう）』によれば、古代律令制での吾妻(阿加豆末：あがつま)郡は、大田(おおた、吾妻町太田地区から吾妻川上流の三島までの右岸一帯)郷、伊参(いさま、中之条町から原町にかけての吾妻川左岸一帯)郷、長田(ながた：中之条町北東部から高山村にかけての名久田川流域)郷の三つの郷に区分され、その郡衙(役所)は原町の大宮巌鼓神社周辺と考えられているが、近年の発掘調査からは疑問視されてきている。一方、長野原町のある西吾妻地区には郷が存在しないとされている。確かに奈良時代の遺構・遺物は極めて希薄で、分布調査でも僅かに確認されているのみである。

だが、平安時代になると遺跡数は増加する。本遺跡以外では、主な遺跡としては長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡、林宮原遺跡、向原遺跡、長畝Ⅰ遺跡、坪井遺跡、花畑遺跡、下原遺跡、川原湯勝沼遺跡が挙げられる。各遺跡での竪穴住居の検出数は数棟と少ないものの、楡木Ⅱ遺跡では９世紀後半から10世紀前半にかけての竪穴住居が38軒もまとまって検出されており、「三家」などと書かれた墨書土器の存在から、高崎市山名町にある山ノ上碑に記載された「佐野三家」との関連を強く想定させる。さらに、朝廷の直轄地である『みやけ・ミヤケ・屯倉・官家』との関連をも想定される。また、西吾妻地区でも最大規模の竪穴住居の数は、たとえ同時存在ではないにしろ、存続期間が９世紀後半から10世紀前半の約百年と短い期間であることから、古代の律令制における地方行政の最も下位の単位である郷に近い形態の集落の存在が推定され、重要な遺跡である。また、町内から瓦塔の破片が発見されており、町重要文化財に指定となっているが、詳細な出土地は不明である。

中世　この時代の西吾妻地区の様子は、吾妻氏の拠点である東吾妻地区に比べて不明な点が多いが、『吾妻鏡』によれば、1241（仁治２）年には三原庄が存在したとされ、信濃源氏の末裔とされる海野氏とその一族の下屋・鎌原・西窪・羽尾氏らの支配下にあったとされている。後の戦国期には齋藤氏や真田氏らが活躍したと記されている。特に、林の地については、1563（永禄６）年の９月の長野原城の戦いの際に、斎藤氏らが王城山から林の神社(現在の王城)を拠点にして、合戦の地となった事が『加沢記』等にも記載されている。羽尾氏から1566（永禄９）年の御山城攻略に功績のあった湯本氏も20貫文を所領している。その後は、齋藤氏が滅亡すると共に、武田氏による湯本氏らへの支配が強化されるが、武田氏やその後の北条氏の滅亡後、真田氏が支配する事となる。この時期の資料としては柳沢城や丸岩城などの城館跡などが中心であったが、近年の発掘調査により掘立柱建物などの屋敷等を検出する遺跡が増えつつある。主な遺跡としては、横壁中村遺跡、二反沢遺跡、下原遺跡等が挙げられる。下原遺跡では中世の畑跡や建物跡が検出されている。二反沢遺跡からは中世の区画跡の他、羽口、鉄滓、椀状滓等の製鉄関連遺物が検出されている。

近世　沼田真田氏による1662（寛文２）年に断行した検地などにより、1681(天和元)年に真田信直の改易となり、この地域の大部分は幕府領や旗本領のいわゆる天領となり、明治維新までその体制が続き、明治以後に林村から1889（明治22)年の１町６村による町村合併により現在の長野原町となった。村高は「寛文郷帳」では125石うち田方14石・畑方111石、「元禄郷帳」では195石、「天保郷帳」と「旧高旧領」では202石である。1857（安政４)年の人別改帳では、戸数73・人数322・馬16と記されている。なお、近世の遺跡の大部分が、1783（天明３）年の浅間山の噴火に伴い噴出した浅間Ａ軽石と泥流堆積物で埋没したものである。主な遺跡としては、東宮遺跡、下湯原遺跡、石川原遺跡、川原湯勝沼遺跡、横壁中村遺跡、下田遺跡、中棚Ⅱ遺跡、久々戸遺跡、尾坂遺跡等が挙げられる。特に、久々戸遺跡の６次調査では、江戸時代の街道である「草津道」が検出されている。小林屋敷遺跡からは地区の豪農であった小林家の屋敷の一部が検出されており、文献との照合もなされている。尾坂遺跡や東宮遺跡



第５図　周辺遺跡（国土地理院５万分の１地形図「草津」使用）

表１　周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概要	備考	報告書等
1	尾阪遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生・平安・中世・近世	天明三年泥流下の畑・建物。中世の掘立柱建物。縄文時代の住居、土坑。弥生時代の再葬墓、土坑。平安時代の住居、土坑等。	平６・７・11・18・19・20・21～23・25・26・28・29年度事業related調査。平23・26に長野原草津口駅舗装備に伴う調査として一部報告	②・④・⑥・本報告
2	小林家屋敷跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の屋敷、礎石建物２、土蔵１、石垣等。分限者小林助左右衛門屋敷の一部。	平14年度町教委調査	⑭
3	旧新井村跡	長野原町与喜屋	近世	昭和55年、自衛隊による町民グランド造成中に泥流で埋没した屋敷が発見された。日待供養塔、石臼、農具などが出土。	「長野原町誌」上巻	⑤
4	向原遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生・平安	縄文時代中期後半～後期の住居３棟・敷石住居２棟、土坑群。弥生時代中期の土坑、平安時代の住居10棟を検出。	平５年度町教委調査	⑤
5	町遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑。	平23～25年度事業related調査	⑥
6	長野原城跡	長野原町長野原	中世	土塁や堀切・物見台などが現存。長野原合戦の舞台となる。	平23年度事業related調査	⑥
7	鳴木Ⅰ遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑、中・近世の陶磁器片。	平16年度町教委調査	⑤
8	久々戸遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑、建物。縄文時代晩期の土器片。	平７・９・10・11・15・26～28年度事業related調査	③・④・⑨・⑤
9	西久保Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	天明三年泥流下の畑。縄文時代の土坑等。	平21・23年度事業related調査	⑨
10	西久保Ⅴ遺跡	長野原町横壁	縄文・古墳・中世・近世	縄文時代中期・後期から古墳時代前期の遺物検出。天明三年泥流下の水田。	平28・29年度事業related調査	⑤
11	中棚Ⅱ遺跡	長野原町林	平安・中世・近世	天明三年泥流下の畑、および安永九年と考えられる埋没畑等。	平11～13・15・28・29年度事業related調査	③・④・⑤
12	横壁中村遺跡	長野原町横壁	縄文・弥生・平安・中世	縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落跡、縄文時代晩期、弥生時代の土器片、平安・中世の遺構・遺物。	平８～17年度事業related調査	③・⑤・⑦・⑩・⑭・⑳・㉒・㉝・㊱・㊲・㊶・㊽
13	下原遺跡	長野原町林	古墳・近世	天明三年泥流下の畑、中世の畑、古墳時代の住居、弥生時代の土器片等。	平12・15・16・29年度事業related調査	③・㊷
14	下田遺跡	長野原町林	平安・近世	天明三年泥流下の畑。江戸・中世の建物。平安時代の住居。陥し穴。縄文時代の掘立柱建物。	平25・26・28・29年度事業related調査	②・⑤
15	川原湯勝沼遺跡	長野原町川原湯	縄文・平安・近世	縄文時代晩期の埋設土器、古墳時代の遺物、平安時代の住居、天明三年泥流下の畑。	平15・16・28年度事業related調査	②・⑥・⑨・⑩・⑤
16	石川原遺跡	長野原町川原湯	縄文・平安・近世	天明三年泥流下の畑。縄文時代中期の住居、列石、配石。平安時代の住居、陥し穴。近世の畑。	平20・25～29年度事業related調査	⑩・⑤
17	川原湯中原Ⅲ遺跡	長野原町川原湯	縄文・平安・近世	縄文時代の竪穴住居、縄文時代と平安時代から近世にかけての土坑。	平28年度事業related調査	⑤
18	西宮遺跡	長野原町川原湯	平安・近世	天明三年泥流下の建物複数、酒蔵、道、石垣、井戸、畑等。	平20・26～29年度事業related調査	⑩・⑤
19	東宮遺跡	長野原町川原湯	近世	天明三年泥流下の屋敷。大型の建物が良好な状態で検出。土台、大引、床板等多くの建築材が残る。また、下駄や石臼、石臼等の当時の道具類も多く出土。	平７・９・19～21・26～29年度事業related調査	②・⑩・⑩・⑩・⑤
20	三ツ堂宮脇遺跡	長野原町川原湯	江戸	江戸時代中期以前の墓地跡。	平28年度事業related調査	⑤
21	西ノ上遺跡	長野原町川原湯	近世	天明三年泥流下の畑。平安時代の陥し穴、弥生時代の土坑等。	平14・27・29年度事業related調査	④・⑩
22	下湯原遺跡	長野原町川原湯	縄文・弥生・平安・中世・近世	縄文時代中期の土坑。平安時代の住居。天明三年泥流下の畑・道。	平27～29年度事業related調査	⑩・⑤
23	石畑遺跡	長野原町川原畑	縄文	天明三年泥流下の畑。	平９・10・29年度事業related調査	②
24	上郷西遺跡	東吾妻町	平安・近世	弥生時代前期の土坑。平安時代の住居。	平19年度事業related調査	㉕
25	上郷原底遺跡	東吾妻町	縄文・近世	天明三年泥流下の畑、水田、礎石建物等。近世の墓坑。平安時代の住居、縄文時代の住居、土坑。	平14・15・17～19年度事業related調査	⑩・㉑・㉝
26	長野原一本松遺跡	長野原町長野原	縄文・平安	縄文時代中期～後期にかけての集落跡、大型の掘立柱建物、敷石住居などを検出。平安時代の住居。中世の掘立柱建物やまくの土坑等が検出されている。	平６～17・19・20年度事業related調査	①・⑮・⑲・㉓・㉘・㊸・㊷
27	幸神遺跡	長野原町長野原	縄文	縄文時代中期の住居・土坑。陥し穴。	平８・９・14・17・18年度事業related調査	⑫
28	柳沢城跡	長野原町横壁	中世	別城一郭付随と呼ばれる特殊な構造、曲輪、堀、土塁などを検出。常滑、瀬戸、美濃、珠洲焼、さらには中国陶磁などが出土。	平５年度町教委調査	⑥
29	西久保Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文	縄文時代後期の住居、水場を検出。中・近世の礎石建物。	平６・10・12・29年度調査	②
30	西久保Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安	散布地。		
31	西久保Ⅲ遺跡	長野原町横壁	縄文	散布地。		
32	楡木Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代の土坑、散布地。	平10・21年度事業related調査	⑨
33	楡木Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期の集落、前期、中期の住居、平安時代の住居。	平11～13・16・17年度事業related調査	⑱・㉒
34	楡木Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文・弥生	縄文時代前期・後期、弥生時代の包含層。	平９年度事業related調査	②
35	二反沢遺跡	長野原町林	中世・近世	中世の石垣を伴う造成跡（旧大乗院堂跡）、近世水路、畑。	平12年度事業related調査	⑨
36	中棚Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文・平安・中世・近世	縄文時代早期の遺物、平安時代の住居。	平23年度町教委、平29年度事業related調査	⑥
37	山根Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文・平安	散布地、磨製石斧、石鏃、石棒などの石器類出土。		
38	山根Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安・近世	平安時代の散布地。		
39	山根Ⅲ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	縄文時代中期後半の住居、土坑等。	平10・13・18年度事業related調査	②・㉗
40	山根Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	縄文～平安時代散布地。		
41	横壁勝沼遺跡	長野原町横壁	縄文	縄文時代中期～後期の土器片、植先形尖頭器出土。	平６・７年度事業related調査	②
42	林宮原遺跡	長野原町林	古墳・平安	古墳時代の住居１、平安時代の住居６、土坑６。	平15・20年度町教委、平24・27年度事業related調査	町教委2004・㊱・㊾・㊾
43	上原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代前期初頭の住居、中期の住居。平安時代の住居、陥し穴等。	平15年度町教委、平24年度事業related調査	

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概　要	備　考	報告書等
44	上原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代中期の住居。	平16年度事業団、平23年度町教委調査	⑥
45	上原Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文	平安時代の住居、鍛冶遺構、陽しだ群。	平23年度町教委、平25・27年度事業団調査	⑥・⑥
46	上原Ⅳ遺跡	長野原町林	縄文・近世	縄文時代後期の敷石住居、配石遺構。	平15・21年度事業団、平20・24年度町教委調査	⑰・⑲・⑥
47	林中原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文・弥生・中世・近世	縄文時代前期～後期住居、配石等。中・近世の掘立柱建物。	平15・20・21年度町教委、平19～21年度事業団調査	⑬・⑯・⑥
48	林中原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文・弥生・中世・近世	縄文時代後期の集落跡。敷石住居、晩期の土器片。弥生時代中期の住居、土坑、中・近世の掘立柱建物。	平15・20・21年度町教委、平20・21年度事業団調査	⑥・⑲・⑥
49	花畑遺跡	長野原町林	縄文・平安	平安時代の住居、陽しだ群。	平9～12年度事業団調査	②
50	東原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代土器片、陽しだ。	平6・9・20・21年度事業団調査	⑲
51	東原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期土器片、石器出土。	平10・20・21年度事業団調査	⑲
52	東原Ⅲ遺跡	長野原町林	平安・近世	縄文時代早期～後期の包含層。中・近世の掘立柱建物。内耳鍋、古瀬戸等出土。江戸時代の遺石建物。	平20・21年度事業団調査	⑲
53	立馬Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期・晩期の住居。弥生時代中期後半の土器収集。	平13・14・17年度事業団調査	⑪
54	立馬Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代草創期・早期の土器・石器。中期初頭～前半の住居9棟。中期後半の住居1棟。平安時代前後の陽しだ穴等。	平14・15年度事業団調査	⑧
55	立馬Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文・平安	縄文時代中期の集落、前期、中期の住居。平安時代の陽しだ穴。	平19年度事業団調査	㉘
56	上ノ平Ⅰ遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安	縄文時代中期の集落。平安時代の住居、陽しだ。	平18・19・28年度事業団調査	㉓・㉙・㉛
57	上ノ平Ⅱ遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安	縄文、平安時代の散布地。		
58	三平Ⅰ遺跡	長野原町川原畑	縄文・弥生・平安	縄文時代早期～前期の集落。弥生時代中期の土坑、平安時代の陽しだ。	平16・17・24・25年度事業団、平20年度町教委調査	⑬・⑲
59	三平Ⅱ遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安	縄文時代早期～前期の包含層、掘立柱建物等。	平16年度事業団調査	⑬
60	二社平遺跡	長野原町川原畑	近世	天明三年泥流下の畑。	平28・29年度事業団調査	㉛
61	居家口岩陰遺跡	長野原町上野原	縄文・弥生・古墳・近世・近代	縄文時代早期～晩期。	平26～29年度國學院大學考古学研究室調査	㊽
62	石畑Ⅰ岩陰遺跡	長野原町川原畑	縄文・中世・近世	縄文時代前期～中世の遺物。天明三年泥流下の畑。	平29年度事業団調査	㊼

※第5図上の●は天明泥流下遺構検出遺跡

参考文献

① 長野原一本松遺跡（1）（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書　第287集（以下（財）群埋文に集）2002
② 八ッ場ダム発掘調査集成Ⅰ:東宮・石畑・川原湯勝沼・横壁勝沼・西久保Ⅰ・山根畑・下田・花畑・檜木原・尾坂（財）群埋文303集　2003
③ 久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原・横壁中村遺跡　（財）群埋文319集　2003
④ 久々戸遺跡（2）、中棚Ⅱ遺跡（2）、西ノ上・上郷A遺跡　（財）群埋文349集　2004
⑤ 横壁中村遺跡（2）（財）群埋文355集　2005
⑥ 川原湯勝沼遺跡（2）（財）群埋文356集　2005
⑦ 横壁中村遺跡（3）（財）群埋文368集　2006
⑧ 立馬Ⅱ遺跡　（財）群埋文375集　2006
⑨ 上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡　（財）群埋文379集　2006
⑩ 横壁中村遺跡（4）（財）群埋文381集　2006
⑪ 立馬Ⅰ遺跡　（財）群埋文388集　2006
⑫ 下原遺跡Ⅱ　（財）群埋文389集　2007
⑬ 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡　（財）群埋文401集　2007
⑭ 横壁中村遺跡（5）（財）群埋文406集　2007
⑮ 長野原一本松遺跡（2）（財）群埋文408集　2007
⑯ 上郷岡原遺跡（1）（財）群埋文410集　2007
⑰ 山根畑遺跡（2）・上原Ⅳ遺跡・幸神遺跡　（財）群埋文429集　2008
⑱ 檜木Ⅱ遺跡（1）（財）群埋文432集　2008
⑲ 長野原一本松遺跡（3）（財）群埋文433集　2008
⑳ 横壁中村遺跡（6）（財）群埋文436集　2008
㉑ 上郷岡原遺跡（2）（財）群埋文438集　2008
㉒ 横壁中村遺跡（7）（財）群埋文439集　2008
㉓ 上ノ平Ⅰ遺跡（1）（財）群埋文440集　2008
㉔ 長野原一本松遺跡（4）（財）群埋文441集　2008
㉕ 上郷西遺跡　（財）群埋文448集　2008
㉖ 立馬Ⅱ遺跡　（財）群埋文457集　2009
㉗ 檜木Ⅱ遺跡（2）（財）群埋文458集　2009
㉘ 長野原一本松遺跡（5）（財）群埋文461集　2009
㉙ 横壁中村遺跡（8）（財）群埋文462集　2009
㉚ 横壁中村遺跡（9）（財）群埋文466集　2009
㉛ 上郷岡原遺跡（3）（財）群埋文471集　2009
㉜ 上郷A遺跡（2）（財）群埋文473集　2009
㉝ 横壁中村遺跡(10)（財）群埋文488集　2010
㉞ 横壁中村遺跡(11)（財）群埋文492集　2010
㉟ 東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡　（財）群埋文502集　2010
㊱ 東宮遺跡(1)（財）群埋文514集　2011
㊲ 横壁遺跡(12)（財）群埋文526集　2012
㊳ 東宮遺跡(2)（財）群埋文536集　2012
㊴ 檜木Ⅰ遺跡・上原Ⅳ(2)遺跡・西久保Ⅳ遺跡　（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書　第549集(以下（公財）群埋文に集)　2012
㊵ 長野原一本松遺跡(6)（公財）群埋文554集　2013
㊶ 横壁中村遺跡(13)（公財）群埋文559集　2013
㊷ 長野原一本松遺跡(7)（公財）群埋文578集　2014
㊸ 長野原城跡・林中原Ⅰ遺跡（公財）群埋文586集　2014
㊹ 横壁中村遺跡(14)（公財）群埋文587集　2014
㊺ 町遺跡（公財）群埋文593集　2014
㊻ 上原Ⅰ遺跡・上原Ⅱ遺跡・林宮原遺跡（公財）群埋文604集　2016
㊼ 尾坂遺跡　社会資本整備総合交付金事業　長野原草津口駅舗装整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（公財）群埋文546集　2012
㊽ 林中原Ⅱ遺跡(2)（公財）群埋文617集 2016
㊾ 上ノ平Ⅰ遺跡(2)（公財）群埋文623集　2017
㊿ 年報35　(公財）群埋文　2016
(51) 年報36　(公財）群埋文　2017
(52) 『新井村誌　長野原町埋蔵文化財調査報告第1集(以下　長野原第○集)
長野原町の遺跡　―町内遺跡詳細分布調査報告書―
長野原町教育委員会(以下　町教委)　1990
(53) 向原遺跡　長野原第5集　向原遺跡　町教委　1996
(54) 小林家屋敷跡　長野原第12集　小林家屋敷跡　町教委　2005
(55) 鳴木Ⅰ遺跡　長野原第15集　町内遺跡Ⅴ　町教委　2005
(56) 林中原Ⅰ遺跡 長野原第20集 町教委 2010
(57) 林中原Ⅱ遺跡 長野原第21集 町内遺跡Ⅹ 町教委 2011
(58) 林宮原遺跡群 長野原第23集 町教委 2011
(59) 三平Ⅰ遺跡 長野原第26集 町教委 2013
(60) 上原Ⅱ遺跡 長野原第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
(61) 上原Ⅲ遺跡 長野原第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
(62) 上原Ⅳ遺跡 長野原第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
(63) 中棚Ⅰ遺跡 長野原第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
(64) 林中原Ⅰ遺跡Ⅺ 長野原第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
(65) 林中原Ⅱ遺跡Ⅹ 長野原第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
(66) 長野原町『長野原町誌』上巻　1976
(67) 長野原町『長野原町の自然』1988
(68) 居家口岩陰遺跡　國學院大學文学部考古学実習報告第53集　2014

からも屋敷が検出されている。林村の被害は、泥押し90石・流死者18・飢人25。生産基盤としては、畑を中心に検出されており、その中に麻の占める割合が高い点、それに対して水田の比率が低い等があげられる。

また、下原遺跡などで1742（寛保２）年の洪水の際に生じた土砂崩れで埋没したと考えられる畑跡も検出され

るなど、さらに古い洪水の存在も推定される。

参考文献
（概説書・図録類）尾崎喜左雄監修　1987『日本歴史地名大系10　群馬県の地名』平凡社、日本地名大辞典編纂委員会編　1988『日本地名大辞典』10　群馬県　角川書店、中之条町歴史民俗資料館　2003『常設展示解説図録』
（県町村史誌）群馬県　1938『上毛古墳綜覧』群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告第５号、長野原町誌編纂委員会編　1976『長野原町誌』上、群馬県史編さん委員会編　1990『群馬県史』通史編Ⅰ、1981『群馬県史』資料編３
（発掘調査報告書）群馬県教育委員会編　1988　群馬県の中世城館跡、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1995～2007　年報：14～26、1998　長野原久々戸遺跡、2002　長野原一本松遺跡（１）、2002　八ッ場ダム発掘調査集成、2003　久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡、2004　久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡（２）・西ノ上遺跡・上郷A遺跡、2005　横壁中村遺跡（２）、2005　川原湯勝沼遺跡（２）、2006　横壁中村遺跡（３）、2006　立馬Ⅱ遺跡、2006　上郷B・廣石A・二反沢遺跡、2006　横壁中村遺跡（４）、2006　立馬Ⅰ遺跡、2007　下原遺跡Ⅱ、2007　三平Ⅰ・Ⅱ遺跡、2007　横壁中村遺跡（５）、2007　長野原一本松遺跡（２）、1995～2007　遺跡は今：１～15
長野原町教育委員会　1996　向原遺跡、2000　坪井遺跡Ⅱ、2001　暮坪遺跡、2004　林宮原Ⅱ遺跡、2005　小林屋敷遺跡、2016　林中原Ⅱ遺跡（２）、2010　林中原Ⅰ遺跡、2011　町内遺跡Ⅹ、2011　林宮原遺跡Ⅷ、2013　町内遺跡Ⅺ、2013　三平Ⅰ遺跡、2013　町内遺跡　、2014　町内遺跡　、2014　滝原Ⅳ遺跡、2017　林地区遺跡群

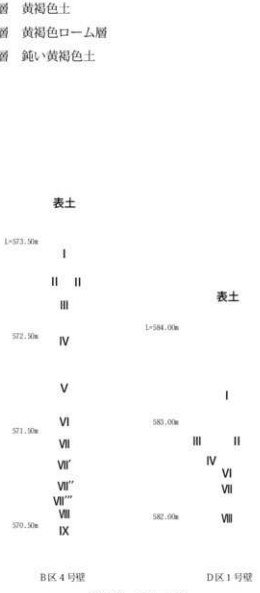
第４節　基本土層

尾坂遺跡は吾妻川左岸に中位段丘面に立地する。基本土層は、基本的には長野原町の吾妻川左岸に位置する遺跡と同様であるが、同地区内、遺跡内でも場所によって若干の違いがある。

Ⅰ層　現表土　畑の耕作土で、層厚20～30cm。
Ⅱ層　暗褐色土　天明泥流の堆積層で、層厚は２m。
Ⅲ層　浅間Ａ軽石(As-A)層。
Ⅳ層　粘質黒褐色土　天明畑の耕作土。白色軽石を含むが、浅間粕川軽石(As-Kk)の可能性。
Ⅴ層　暗褐色土
Ⅵ層　明黄褐色土
Ⅶ層　褐色土
Ⅷ層　黄褐色土
Ⅸ層　黄褐色ローム層
Ⅹ層　鈍い黄褐色土

B区４号壁
Ⅰ　天明泥流堆積物
Ⅱ　As-A
Ⅲ　黒褐色上10YR3/1　天明泥流下畑作上。白色粒を若干含む。
Ⅳ　黒褐色上10YR3/1　天明泥流下畑耕作上。白色粒、黄橙色粒、１～5cm大の亜角礫を少量含む。
Ⅴ　黒褐色上10YR2/2　褐色ブロック上、白色粒、黄橙色粒を多量に含む。下位ほど明るく、暗褐色に近くなっていく。
Ⅵ　暗褐色上10YR3/4　黄橙色粒、黒色ブロック土を少量含む。下位に鉄分沈着有。
Ⅶ　明黄褐色上10YR6/6　砂質上。黄橙色粒を若干含む。
Ⅶ′黄褐色上10YR5/8　砂質上。黄橙色粒を少量含む。
Ⅶ″明黄褐色上10YR6/6　砂質上。白色粒を若干含む。
Ⅶ‴黄褐色上10YR5/6　砂質上。
Ⅷ　灰黄褐色上10YR4/2　砂質上。黒色土が若干混じる。
Ⅸ　黄褐色上10YR5/8　砂質上。白色軽石を少量含む。

D区１号壁
Ⅰ　天明泥流堆積物
Ⅱ　As-A
Ⅲ　黒褐色上10YR3/1　天明泥流下畑作上。白色粒を若干含む。
Ⅳ　黒褐色上10YR3/1　天明泥流下畑耕作上。白色粒、黄橙色粒、１～5cm大の亜角礫を少量含む。
Ⅵ　暗褐色上10YR3/3　白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒、１～10cm大の亜角礫を少量含む。
Ⅶ　黄褐色上10YR5/8　シルト質土。白色粒、黄橙色粒、黒色ブロック土を多量、１～20cm大の亜角礫、炭化物粒を少量含む。
Ⅷ　明黄褐色上10YR6/8　砂質上。礫層。１～50cm大の亜円礫を大量、白色粒、黄橙色粒、黒色ブロック土を若干含む。



第６図　基本土層

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　遺跡の概要

本遺跡の発掘調査の対象地全域は、その大部分が中位段丘面であり、南側の吾妻川に沿った低い部分が下位河岸段丘面である。ここには離水以後の土壌が堆積しており、その中には年代の鍵層となる軽石や火山灰も堆積しているが、大部分が純層ではなく攪拌された状態で確認されるために、文化層の把握がやや難しい状態である。

本遺跡での発掘調査による調査面は３面（一部４面）である。確認できた遺構は、古い順に縄文時代、平安時代、及び中近世、江戸時代に属するものである。

遺物は縄文時代、弥生時代、平安時代、及び中近世、江戸時代のものである。調査面積は約10,000㎡であるが、部分的に複数の文化面を有する地域もあるので、それに対応して数値が増す事となる。

本章では時期の古い順にそれぞれ遺構の種類別に項目を設定し、個々の遺構について説明を加えた。そのため、遺構に付けられた番号順になっていない場合もある。次に、各時代毎の遺構・遺物にこれまでの調査内容を含めて、その特徴をみていく事とする。

縄文時代は基本土層のⅣ層からⅤ層にかけて、前回の調査では竪穴住居、集石などの遺構が多数検出されている。今回は遺物としては、中期後半の加曽利Ｅ式の土器が出土している。

平安時代では、南側への傾斜する地形のために住居の南壁の残りが悪いものの、基本土層のⅡ層からⅢ層にかけて、何棟もの竪穴住居などが検出されているが、今回の調査では、平安時代の明確な遺構は検出されていない。

また、浅間Ｂテフラと呼ばれる1108（天仁元）年浅間山給源の軽石や火山灰は明確ではないものの、第Ⅳ層の中に混じり込んでいる。さらに、浅間－粕川軽石と呼ばれる1128（大治３）年に降り積もった火山灰が、埋没途中の陥し穴の堆積層中で検出されている事から、少なくとも平安時代の陥し穴が何基かは存在したと考えられる。

さらに、中世以降から近世にかけては、基本土層の第Ⅳ層上部から掘立柱建物が何棟も築造されていた。

出土遺物は古いものでは僅かであるが中国からの貿易陶磁である青磁があり、他に擂鉢や碗などの陶磁器や内耳などの軟質陶器などの破片がいくつも出土しており、その大部分は16世紀以降のものである。

第１面は、天明の泥流に覆われた畑や平坦面、道、石垣などを検出している。

第２節　江戸時代の遺構と遺物

本遺跡では、天明３年(1783)に浅間山の噴火により発生した泥流によって埋没した当時の生活面を検出した。第１面の文化層である。

この２m以上の厚さで覆い被さった泥流の下から検出されたのは、畑とそれに伴う道や石垣などである。

なお、土坑やピットと異なり、広い範囲に広がる畑や、長く延びた道、石垣などについては、該当するグリッドが数多くなるために、図を示すだけで省略することとする。

また、遺物については、陶磁器や銭貨、煙管や木材片、種子などが出土した。

(１)遺構

１　畑

前回の報告にあるように、本遺跡での発掘調査対象の約４万㎡の台地は、母屋や納屋、倉などの立ち並ぶ集落景観を見せる、当時の人々の日々の生活を営む居住空間としての場と、いわゆる「前栽畑」と規格化された生産作物の栽培のための耕作経営を行うための、生産拠点の場とに大別されると考えられる。特に、１号建物を中心とした周辺では、畝サクの切り替えや部分的な利用形態の違いなど、小単位で不均質な耕作形態が確認できる。他方、生産拠点となるような耕作地では、道や河道の存在で囲われた範囲は、まず、中央を南北に２分するような区割りが行われ、主に南北に細長く短冊状に区分けして開削された形態が見て取れる。これらは、天明泥流被災後90年ほどが経過した明治５～６(1872～1873)年の壬申地引絵図にもその様相がほぼ類似して示されている。

後者の耕作地としての畑は、これまでにある程度のまとまりをもつ小単位が集まり、規格を持った集合で畑が構成されていることが分かっている(関俊明 2003「天明三年泥流畑の耕作状況」『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』)。それらは、「ツカ」と呼ばれる当地域の特徴的な民俗事例とも密接に対応している。それらを畑遺構の中で、「単位畑」と「中単位」で構成されているという造語を用いて、解釈して遺構番号を付すなどの整理作業を行った。

A区(第７図、ＰＬ．１)

ここでは、0S６－１号畑、0S６－２号畑、0S６－４号畑、0S13－２号畑、0S40号畑が存在する。このうち平坦面が検出されたのは0S６－２号畑の１か所だけである。

B区(第８図、ＰＬ．３～９)

ここでは、0S26－４・５・７～13号畑と0S27－７号畑が検出されている。このうち平坦面が検出されたのは0S26－８～10号畑と0S26－12・13号畑の５か所である。いずれも遺跡の東南の台地の縁辺部に位置することから、泥流による当時の地面が削り取られるなど、0S26－５号畑や0S26－13号畑での遺構の残りが非常に悪い。

0S26号畑は、４号道の段下に位置し、畝サクの方向から、２ないしは３筆の区画に分かれるものと考えられるが、泥流により畑の表面が荒らされていることと、調査部分が極めて僅かであることで、詳細については不明である。

0S27号畑は、南に傾斜する畑地景観の全体を見渡すと、およそ３段の段丘面と捉えるとその中段位にあたるのが、0S27号畑周辺である。降下したAs-A軽石が筋状に残され畑の畝サク方向が確認されるが、残存状況は良好ではないために、詳細は不明である。単位畑としての区分けなのか、あるいは、本来は何筆かに区分けされるのかもしれない。また、最も北寄りの畝サクの走行は0S22号畑と似通うが、20mの距離で、標高差が５m近くあり、同一の畑とは考えにくい。各単位畑の畝サクの方向が異なり、区分けされる可能性もあるが、根拠が不足するため一括りの畑とした。隣接する21号道は、0S27号畑の北側を東あるいは西へと繋がっていたものと考えられる。

C区(付図(３)、ＰＬ．９・10)

ここでは、0S32－４～６号畑、0S33号畑、0S34－１～３号畑が検出されている。このうち平坦面が検出されたのは0S32－６号畑、0S33号畑、0S34－３号畑の３か所である。

遺跡全体をおよそ３段の段丘面と捉えるとその下位段にあたるのが、0S32号畑～0S35号畑周辺である。

本書で扱う最上位からは、およそ10mの高低差をとる。0S32号畑は、平坦面と畝サク境界により、３つの中単位

で５つ以上の単位畑に区分けすることができる。東の４ｍほどの段差側には、８号石垣が配置されて、さらに段差側からの伏流水等の処理のための根切りの溝が東側で面している。

0S33号畑は、直線的に並べられた石垣と北の段差から直線的な区割りの踏分道により区分けされており、降下したAs-A軽石を鋤き込んだ耕作形態と考えられる。0S33号畑と0S34号畑の境界は調査が及ばなかったため、確認できていない。0S34号畑は前回の報告では平坦面が２か所確認され、２つ以上の単位畑が確認できるが、範囲や単位あたりの面積など詳細は不明である。

D区(付図(４)、ＰＬ.12)

ここでは0S30号畑、0S31号畑、0S35号畑が検出されている。いずれも遺跡の南西端の台地の縁辺部に位置することから、泥流による浸食が激しいために遺構の残りが悪く、平坦面の存在も不明である。

0S30号畑は、最上位面から傾斜がはじまり、中下位面に向かう斜面畑となっている。泥流の営力による削平等で、畑耕作面の残存状況は不良であり、平坦面は明確でない。しかし、２号道から短冊状に切り出された短冊状の区割りを確認することができる。辛うじて平坦面が検出されていて、これを根拠に単位畑の区分けも可能かもしれないが、詳細は不明となり、今後の課題である。

0S31号畑は、最上位面から傾斜がはじまり、中下位面に向かう斜面畑となっている。泥流の営力による削平等で、畑耕作面の残存状況は不良であり、平坦面は明確でない。しかし、２号道から短冊状に切り出された短冊状の区割りを確認することができる。

0S35号畑は、遺跡全体を３段の段丘面と捉えるとその下位段にあたる。本書で扱う最上位からは、およそ10ｍの高低差をとる。平坦面は明確でない。0S34号畑とは互いを区分けする踏分道で区画されている。だが、残存状況が不良で詳細については不明である。

７号石垣の西の延長線の段の、0S30号畑と0S31号畑は上の面、0S35号畑は下の段に位置する。

遺跡全体をおよそ３段の階段状テラス面と捉えるとその最下位面にあたるのが、0S33号畑～0S35号畑周辺である。この段差面端の法面側には、石が積まれており、東に存在する７号石垣の延長かもしれないが、一応は９号石垣と設定する。この９号石垣については、前回報告の７号石垣や今回報告する８号石垣と共に上位面と下位面との畑を分離するテラス状の段を抑える役目を持っていると考えられる。

0S35号畑は、前回報告分よりも今回調査の部分では遺構の残りが悪いものの、直線的に並べられた石垣と北の段差から直線的な区割りの踏分道により区分けされており､降下したAs-Aを鋤き込んだ耕作形態とも考えられる。

0S30号畑と0S31号畑との境界は、泥流による浸食が激しいために確認出来ず、範囲や単位あたりの面積など詳細は不明である。

なお、最上面とは、約10ｍの高低差である。

E区(第９図、ＰＬ.20)

ここでは、0S40号畑、0S ５－３・４号畑が検出出されているが、いずれも遺跡の東端の台地の縁辺部に位置することから、泥流による浸食が激しいために遺構の残りが悪く、平坦面の存在も不明である。

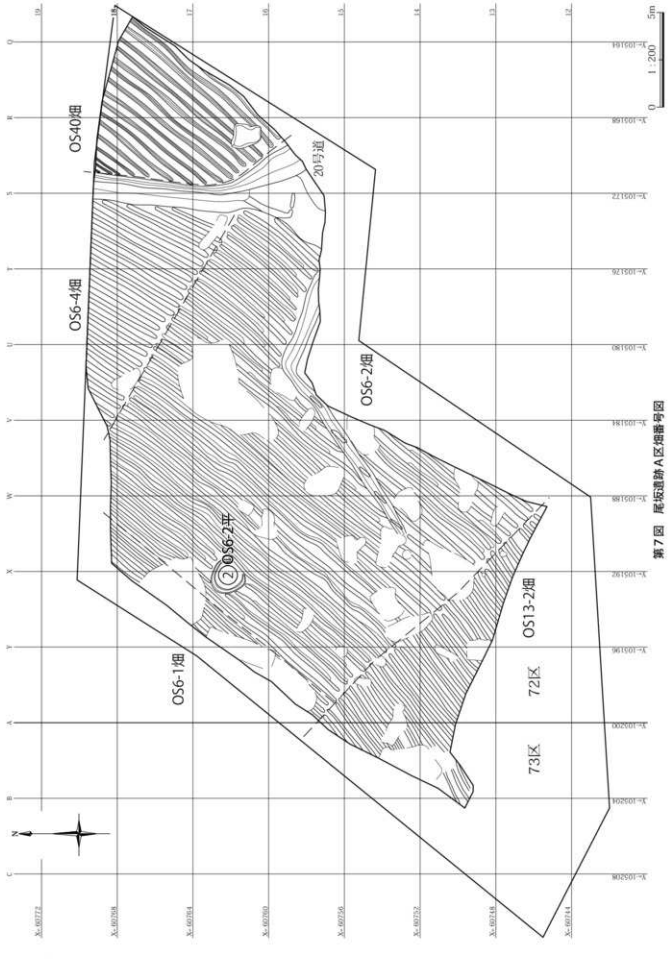
２　道

20号道(第７図)

20号道は、今回はＡ区の調査で北西から南東の向きで僅かに検出されただけだが、前回の報告では、北側で10・11号道とつながるものと考えられるが、10号道と異なるのは、１号河道とは離れていることである。調査区外となって不詳であるが、おそらく10号道とは分岐しているものと考えられる。0S ５号畑と0S ６・７号畑との境となって16号溝と一致してから右に折れ、南下する。途中、１号焼土が0S ６号畑の道際に所在しているが、同時存在したものかは不明である。また、南端が調査区域外に延びているために詳細は不明だが、台地の縁に向かっていることから、そのまま台地の傾斜変換線に沿って延びるのか、あるいは台地の縁から吾妻川に向かって下っていく可能性も考えられる。

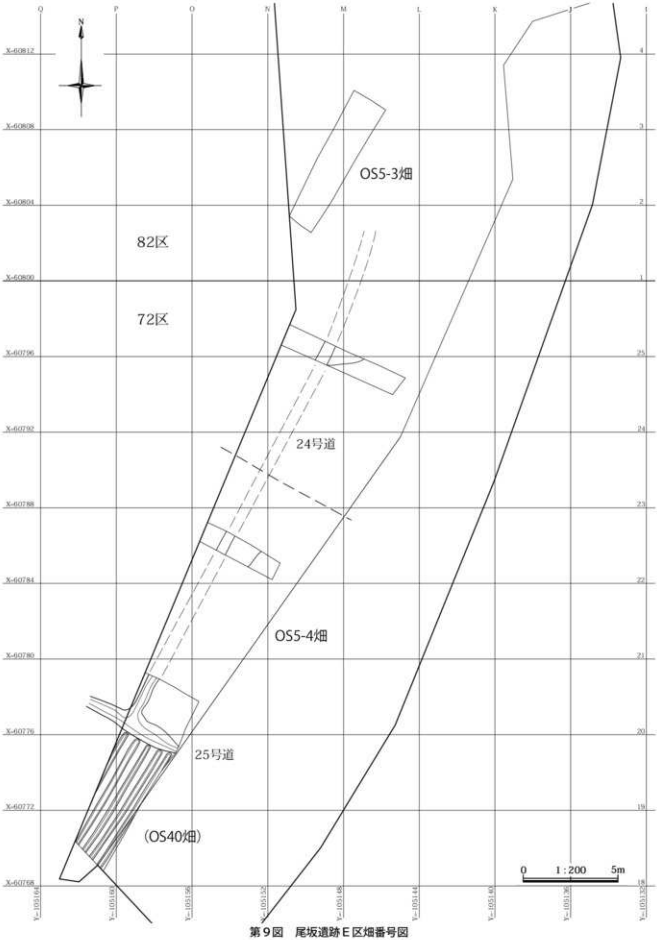
21号道(第８図)

21号道はＢ区の調査で北東から南西の向きに延びる形で検出された。遺跡が広がる台地の縁辺部、いわゆる傾斜変換線部分に位置する。ここから東は吾妻川に向かって急速に下っていく段丘崖線の地形である。その一部や

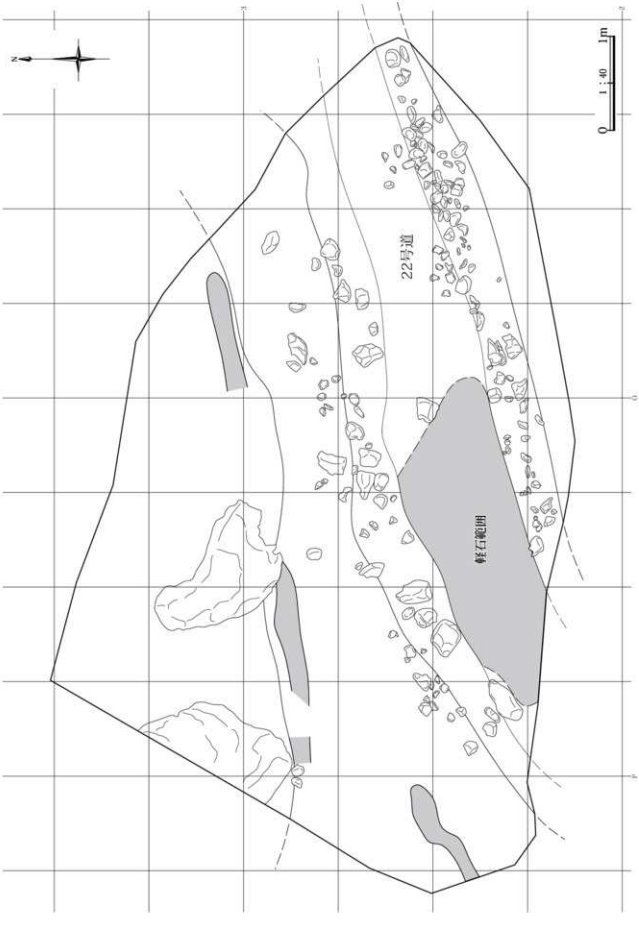


第７図　尾吹遺跡Ａ区畑番号図

第８図　尾坂遺跡Ｂ区畑番号図



第９図　尾坂遺跡Ｅ区畑番号図



第10図　尾坂遺跡E区遺構平面図

北端と南端が調査区域外に延びているために、他の道との分岐などは分からないが、西に存在する１号道との関連も考えられる。つまり延長の可能性もある。

22号道(第10図、ＰＬ.17)

22号道は僅かな距離しか検出されていないが、走行方向が東にある４号道との延長線上にあることから、４号道の可能性もある。

23号道(付図(４)、ＰＬ.20)

23号道は９号石垣の南側に接している。走行方向は東西で西側は南西に折れて調査区外に延びるが、東側は途中で途切れている。

24号道(第９図、ＰＬ.20)

24号道は遺跡の東端の台地の縁辺部をほぼ南北に延びる、いわゆる傾斜変換線部分に位置する。西側にOS５－３・４号畑が隣接して検出されている。この台地での畑としての土地利用の東の際である。ここから東は吾妻川に向かって急速に下っていく段丘崖線の地形である。

25号道(第９図、ＰＬ.20)

25号道は東西に延びる道であるが、前回の報告の東側には見つからず、ややずれた場所に16号溝が存在するため、この遺構との関連が疑われる。

３　石垣

８号石垣(付図(３))

８号石垣はほぼ南北に延びる石垣であるが、段丘最下位面の崖の法面を抑えるために積み上げられらた構築物である。崖の縁に沿って残る石の様子から北西の存在するOS32号畑とOS33号畑を取り巻くように北側の段丘の段差とを保持するために構築されている。形状は平面的に直線となっている西部分、やや小振りの円礫を中心に用いて築かれた中央部分、途切れながら残存する東側部分の３つの部分に分けられる。西部分には、比較的大きな亜角礫が用いられ、中央部分には円礫が用いられ、さらに小さな円礫が沢山用いられている特徴がある。東側では礫が途切れる部分や地山の礫を用いてあてがわれたかと考えられるような構成になっている。西側はほぼ直線をなし、途中、OS32号畑とOS33号畑の境界付近でスロープを形成するかのような部分がある。西側と中央の石垣の接合点付近では、積み方による新旧関係があるようにも観察できる。さらに、中央と東側の石垣の接合付近は、南西方向に突出するような形状を呈しており、集めた礫を裏込めに処理をしているかのようにさえみえるが、詳細は不明である。石垣上位は、泥流あるいは、表土掘削時に削平されてしまっている可能性があるが、畑が広がる耕作地である段丘地形の斜面を保持するための石垣と判断される。

さらに、段丘最下位面の崖の法面に沿って北東に隣接する７号石垣に続く可能性もある。

９号石垣(付図(４))

９号石垣はほぼ東西に延びる石垣であり、８号石垣と同様に段丘最下位面の崖の法面を抑えるために積み上げられた構造物である。すぐ南に23号道が石垣に沿っている。石垣そのものは東西で途切れているが、東に位置する７号石垣に延長で連なるのかもしれない。

４　溝

前回の報告での隣接地で１・５・16号溝が存在するはずが、今回は検出されなかった。

(２)出土遺物

江戸時代後期の天明泥流で埋没した畑などから、陶磁器などが出土している。A区は肥前系の磁器、C区は肥前系の波佐見焼の「くらわんか碗」や、金属製品の煙管の雁首や吸い口、建築材などの木材片や自然木、桃の種子や松笠などの自然植物などが出土している。

第３節　中近世の遺構と遺物

遺構は、土坑、ピット、焼土が検出されている。遺物は、陶磁器や金属製品、木製品が出土している。

（１）遺構

１　土坑

本遺跡から出土した土坑については、形状や規模、埋没土の様子などから大きく３類に分類した。１類は細長い隅丸長方形であることから、畑の区画の境界際に掘削されることが多い「イモ穴」と認定した。２類は隅丸長方形だが浅く、礫が含まれることから、畑の土に含まれる礫の処理穴と考えられる。３類は、１・２類に該当しない形状・規模の土坑を集めた。

いずれも、第１面の天明面よりも下位であることや埋没土の様子や形状から、前回の報告での第２面の中世、第３面の平安時代にいずれかに属すると考えられると判断した。

400号土坑（第11図、ＰＬ．１）

72区Ｓ－18グリッドに位置する。北側が調査区域外にのびるために形状は不明確だが、隅丸長方形と推定される。規模は長軸(1.50)ｍ、短軸(1.24)ｍ、深さ0.60ｍ。主軸方位はN-49°-W 。分類は１類と推定。重複関係は不明。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.6ｍとやや深く、やや緩やかに立ち上がる。
埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

401号土坑（第11図、ＰＬ．１）

72区Ｓ－15・16、Ｔ－16グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸3.38ｍ、短軸1.06ｍ、深さ0.22ｍ。主軸方位はN-48°-W。分類は１類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2ｍと浅くやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

402号土坑（第11図、ＰＬ．１）

72区Ｔ・Ｕ－16グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸3.58ｍ、短軸1.06ｍ、深さ0.23ｍ。主軸方位はN-38°-W。分類は１類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2ｍと浅くやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

403号土坑（第11図、ＰＬ．１）

72区Ｖ－13グリッドに位置する。南側が調査区域外にのびるために形状は不明確だが、隅丸長方形と推定される。規模は長軸(1.25)ｍ、短軸0.52ｍ、深さ0.34ｍ。主軸方位はN-49°-W。分類は１類。重複関係は不明。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3ｍと浅くやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

404号土坑（第11図、ＰＬ．２）

72区Ｗ－12グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.26ｍ、短軸0.66ｍ、深さ0.27ｍ。主軸方位はN-18°-W。分類は２類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3ｍと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

405号土坑（第11図、ＰＬ．２）

72区Ｒ－16・17、Ｓ－17グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸1.30ｍ、短軸0.80ｍ、深さ0.17ｍ。主軸方位はN-36°-E。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2ｍと浅くやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

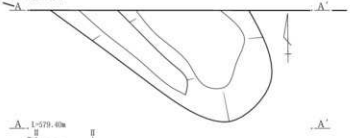
406号土坑（第12図、ＰＬ．２）

72区Ｕ・Ｖ－16グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸0.98ｍ、短軸0.85ｍ、深さ0.20ｍ。主軸方位はN-42°-W。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2ｍと浅く、壁の下半部はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

407号土坑（第12図、ＰＬ．２）

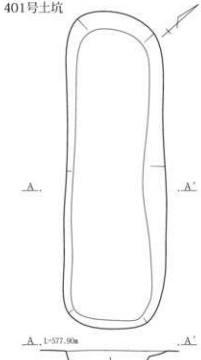
72区Ｕ・Ｖ－16グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸0.84ｍ、短軸0.64ｍ、深さ0.28 ｍ。主軸方

400号土坑



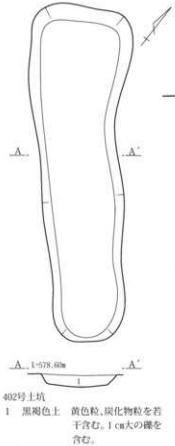
400号土坑
Ⅰ　天明泥流
Ⅱ　As-A
Ⅲ　褐灰色土　畑耕作土。粘性やや有り。鉄分沈着が見られる。
Ⅴ　黒褐色土　黄色や白色の細粒軽石をゴマ塩状に含む。炭化物粒を多量、１～10cm大の亜角礫を少量、赤褐色粒を若干含む。
Ⅵ　黄褐色土　砂質土。白色粒、黄橙色粒を多量に含む。
１　Ⅴ層に黄褐色ブロック土が混じる。
２　Ⅴ層と似ている。やや明るく、暗褐色ブロック土を少量含む。
３　Ⅴ層と似ている。白色粒、黄橙色粒を多量に、基本Ⅵ層のブロック土を少量含む。
４　黄褐色土　白色粒、黄橙色粒、黒褐色や暗褐色のブロック土を少量、１cm大の赤褐色ブロック土を若干含む。
※　１～４は、400号土坑。

401号土坑



401号土坑
１　黒褐色土　黄色粒、炭化物粒を若干含む。１cm大の礫を含む。

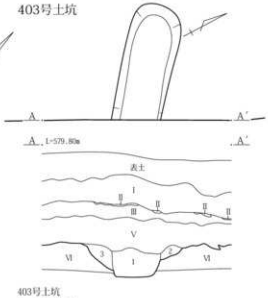
402号土坑



402号土坑
１　黒褐色土　黄色粒、炭化物粒を若干含む。１cm大の礫を含む。

0　1:40　1m

403号土坑

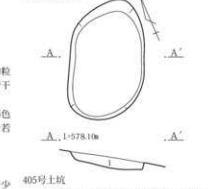


403号土坑
Ⅰ　天明泥流
Ⅱ　As-A
Ⅲ　褐灰色土　畑耕作土。粘性やや有り。鉄分沈着が見られる。
Ⅴ　黒褐色土　黄色や白色の細粒軽石をゴマ塩状に含む。炭化物粒を多量、１～10cm大の亜角礫を少量、赤褐色粒を若干含む。
Ⅵ　黄褐色土　白色粒、黄橙色粒、１cm大の炭化物、黒褐色や暗褐色のブロック土を少量、１cm大の赤褐色ブロック土を若干含む。
１　Ⅴ層に明黄褐色ブロック土を多量に含む。
２　Ⅴ層に黄橙色粒・白色粒を多量に含む。
３　黄褐色土　白色粒、黄橙色粒、黒褐色や暗褐色のブロック土を少量、１cm大の赤褐色ブロック土を若干含む。
※　１～３は、403号土坑。

404号土坑

404号土坑
１　黒褐色土　５cm大の亜角礫を多量、白色粒を少量含む。
２　黒褐色土　暗褐色ブロック土、白色粒を多量に含む。砂質土。

405号土坑



405号土坑
１　黒褐色土　黄色粒、炭化物粒、黄色ブロック土を若干含む。

第11図　土坑（１）

位はN-10°-W。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

408号土坑(第12図、ＰＬ．２)

72区Ｗ－14・15グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.12m、短軸0.74m、深さ0.15m。主軸方位はN-40°-Ｅ。分類は２類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

409号土坑(第12図、ＰＬ．４)

63区Ｈ－15・16グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸5.32m、短軸0.82m、深さ0.39m。主軸方位はN-30°-Ｗ。分類は１類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.4mと浅く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

410号土坑(第12図、ＰＬ．４)

63区Ｉ・Ｊ－14グリッドに位置する。隅丸長方形。規模は長軸2.10m、短軸1.24m、深さ0.50m。主軸方位はN-65°-Ｗ。分類は３類。重複関係は411号土坑とで、411号土坑より新しい。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.5mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

411号土坑(第12図、ＰＬ．４)

63区Ｊ－14グリッドに位置する。410号土坑と重複しており、形状は不明確だが、楕円形か？規模は長軸(0.45)m、短軸0.72m、深さ0.38m。主軸方位は不明。分類は３類。重複関係は410号土坑とで、410号土坑より古い。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.4mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

412号土坑(第12図、ＰＬ．４)

63区Ｊ－11グリッドに位置する。形状は不定形。規模は長軸1.92m、短軸1.55m、深さ0.38m。主軸方位はN-58°-Ｗ。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.4mと浅く、西壁はほぼ垂直に立ち上がるが、その他の壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。縄文土器が出土している。

413号土坑(第13図、ＰＬ．４)

63区Ｉ・Ｊ－19・20グリッドに位置する。北半分が調査区域外にのびるので、形状は不明確だが、隅丸長方形と推定される。規模は長軸(1.14)m、短軸0.75m、深さ0.46m。主軸方位はN-39°-Ｅ。分類は１類。重複関係は不明である。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.5mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

414号土坑(第13図、ＰＬ．５)

63区Ｂ－20・21グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸0.80m、短軸0.52m、深さ0.16m。主軸方位はN-39°-Ｅ。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

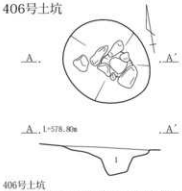
415号土坑(第13図、ＰＬ．５)

63区Ｂ－20グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸1.00m、短軸0.74m、深さ0.16m。主軸方位はN-44°-W。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

416号土坑(第13図、ＰＬ．５)

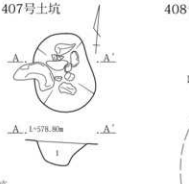
63区Ｃ・Ｄ－18グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸1.40m、短軸1.08m、深さ0.33m。主軸方位はN-40°-Ｅ。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと

406号土坑



406号土坑
1　黒褐色土　黒色味強く、白色粒、黄橙色粒を少量、3㎝大の褐色ブロック土を若干含む。シルト質土。3㎝～10㎝大の礫が周りに並ぶ。

407号土坑

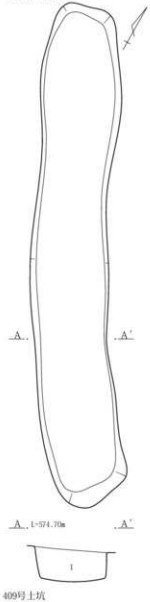


407号土坑
1　黒褐色土　黒色味強く、白色粒、黄橙色粒を少量、3㎝大の褐色ブロック土を若干含む。シルト質土。

408号土坑

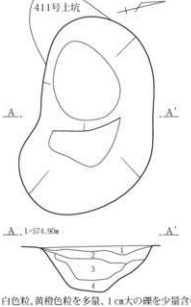
408号土坑
1　黒褐色土　黒色味強く、白色粒、黄橙色粒、5～10㎝大の亜円礫を少量、3㎝大の褐色ブロック土を若干含む。シルト質土。長方形の土坑。

409号土坑



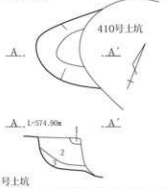
409号土坑
1　黒褐色土　黄橙色粒を多量、黄褐色砂質ブロック土、白色粒を少量、炭化物粒を若干含む。

410号土坑



410号土坑
1　褐灰色土　白色粒、黄橙色粒を多量、1㎝大の礫を少量含む。
2　暗褐色土　白色粒、黄橙色粒、炭化物粒多量、黒色ブロック土、1㎝大の礫を若干含む。
3　黒褐色土　白色粒、黄橙色粒、炭化物粒多量、黄褐色砂質ブロック土、1㎝大の礫を若干含む。
4　暗褐色土　黄褐砂質ブロック土を大量、白色粒、黄橙色粒を少量、炭化物粒を若干含む。

411号土坑



411号土坑
1　暗褐色土　黄橙色粒を多量、炭化物粒、白色粒を少量含む。
2　にぶい黄褐色土　黄橙色粒、暗褐色ブロック土を少量含む。
3　暗褐色土　黄褐砂質ブロック土を大量、白色粒、黄橙色粒を少量、炭化物粒を若干含む。

412号土坑

412号土坑
1　黒褐色土　やや淡い。1～2㎝大の炭化物を多量、黄橙色粒を少量含む。
2　黄褐色土　5～10㎝大の亜円礫を少量含む。1層の土が混じる。
※　縄文土器1片出土。

0　1:40　1m

第12図　土坑（2）

浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

417号土坑(第13図、ＰＬ．５)

63区Ⅰ－21グリッドに位置する。形状は不定形。規模は長軸0.48m、短軸0.42m、深さ0.20m。主軸方位はN-52°-E。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、東壁の下半部はほぼ垂直に立ち上がるが、その他はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

418号土坑(第13図、ＰＬ．５)

63区Ⅰ－22グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸0.76m、短軸0.58m、深さ0.23m。主軸方位はN-88°-W。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

419号土坑(第13図、ＰＬ．５)

63区Ｈ－20グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.02m、短軸0.76m、深さ0.38m。主軸方位はN-54°-W。分類は３類。重複関係はないが、床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.4mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

420号土坑(第13図、ＰＬ．５)

63区Ｈ－22グリッドに位置する。形状は円形。規模は径0.48m、深さ0.20m。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

421号土坑(第13図、ＰＬ．５・６)

63区Ｈ－23・24グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸0.90m、短軸0.74m、深さ0.26m。主軸方位はN-10°-E。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

422号土坑(第14図、ＰＬ．６)

63区Ｆ・Ｇ－18グリッドに位置する。形状は円形。規模は径0.60m、深さ0.23m。分類は３類。重複関係はない。床面はほぼ平らで、遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

423号土坑(第14図、ＰＬ．６)

63区Ⅰ－23グリッドに位置する。形状はほぼ円形。規模は径1.28m、深さ0.42m。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.4mと浅く、北から西にかけての壁の下半部はほぼ垂直に立ち上がるが、その他はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

424号土坑(第14図、ＰＬ．６)

63区Ｅ－22･23グリッドに位置する。形状はほぼ円形。規模は径0.90m、深さ0.24m。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

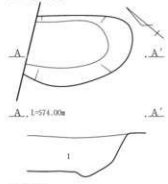
425号土坑(第14図、ＰＬ．６)

63区Ｄ・Ｅ－20グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸1.18m、短軸0.97m、深さ0.48m。主軸方位はN-40°-E。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.5mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は細かく分離でき、炭化物がどの層からも検出される。基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

426号土坑(第14図、ＰＬ．６)

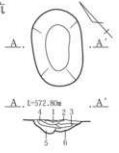
63区Ｃ・Ｄ－22・23グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸1.22m、短軸1.13m、深さ0.21m。主軸方位はN-10°-W。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2

413号土坑



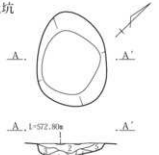
413号土坑
1　黒褐色土　黄褐色粒を多量に含む。

414号土坑



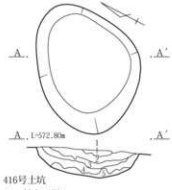
414号土坑
1　にぶい黄褐色土　シルト質,As-Kkか?
2　黒褐色土　やや暗い,白色粒,橫橙色粒,炭化物粒を少量含む。
3　黒褐色土　白色黄橙色粒,黄褐色砂質ブロック土を多量に含む。
4　黒褐色土　黄褐色砂質ブロック土を含まない３層。
5　暗褐色土　やや明るい,白色粒,黄橙色粒を多量に含む,縄文の土器片が１つ出土。
6　褐色土　やや明るい,暗褐色ブロック土,白色粒,黄橙色粒を多量に含む。

415号土坑



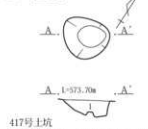
415号土坑
1　にぶい黄褐色土　シルト質,As-Kkか?
2　黒褐色土　１cm大の黄橙色粒を多量,白色粒,炭化物粒を少量含む。
3　暗褐色土　白色粒,黄橙色粒、５cm大の炭化物粒を多量に含む。
4　暗褐色土　白色粒、２cm大の黄橙色粒、５cm大の炭化物粒を多量に含む。
5　暗褐色土　白色粒,黄橙色粒、５cm大の炭化物粒を少量含む。
6　褐色土　やや明るい,暗褐色ブロック土、白色粒,黄橙色粒を多量に含む。

416号土坑



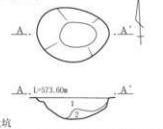
416号土坑
1　基本Ⅳ層。
2　黒褐色土　白色粒を少量、黄褐色粒、炭化物粒を若干含む,鉄分沈着有り。
3　暗褐色土　黄褐色粒を少量含む。
4　にぶい黄褐色土
5　明黄褐色土　砂質土。

417号土坑



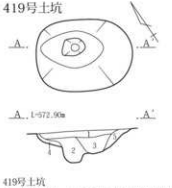
417号土坑
1　黒褐色土　白色粒、黄褐色粒を多量に、明黄褐色ブロック土を若干含む。

418号土坑



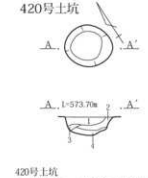
418号土坑
1　黒褐色土　白色粒、黄褐色粒を多量に、明黄褐色ブロック土を若干含む,鉄分沈着有り。
2　にぶい黄褐色土　１cm大の礫を含む,砂質土。

419号土坑



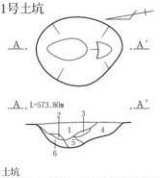
419号土坑
1　暗褐色土　黄橙色粒、白色粒を多量に含む,鉄分沈着有り。
2　黒褐色土　黄橙色粒、白色粒を若干含む。
3　にぶい黄褐色土　黒色ブロック土を多量に含む。
4　にぶい黄褐色土　黄橙粒を多量に含む。
5　にぶい黄褐色土　黄褐色ブロック土を含み、黄橙色粒を少量含む。

420号土坑



420号土坑
1　黒褐色土　黄橙色粒を多量に含む。
2　暗褐色土　黄橙色粒、白色粒を多量に含む。
3　黄褐色土　黒色ブロック土を含む。
4　にぶい黄褐色土　砂質

421号土坑



421号土坑
1　暗褐色土　黄橙色粒、白色粒を多量に含む。
2　暗褐色土　黒色ブロック土を含む。
3　にぶい黄褐色土　黒色ブロック土を含む。
4　黒褐色土
5　にぶい黄褐色土　黒色ブロック土を含む。
6　黄褐色土　砂質,地山。

0　1:40　1m

第13図　土坑（３）

ｍと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

427号土坑(第14図、ＰＬ．６)

63区Ｅ－20・21グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸1.54m、短軸1.20m、深さ0.83m。主軸方位はN-36°-W。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.8mとやや深く、壁の下半部は緩やかに立ち上がるが、上半部は２段で垂直に立ち上がる。
埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

428号土坑(第15図、ＰＬ.13)

75区Ｂ－４・５グリッドに位置する。形状はほぼ円形。規模は径1.74m、深さ0.80m。分類は３類。重複関係はない。床面はやや平らで、遺構確認面からの深さは約0.8mとやや深く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

429号土坑(第14図、ＰＬ.13)

75区Ｂ－４グリッドに位置する。南側が調査区域外にのびるために形状は不定形。規模は長軸0.87m、短軸(0.74)m、深さ0.63m。主軸方位はN-43°-E。分類は３類。重複関係は不明である。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.6mとやや深く、東壁の下半部はほぼ垂直に立ち上がり、西側はやや緩やかに立ち上がる。東壁の一部が崩落により、ハングしている。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

430号土坑(第14図、ＰＬ.13)

75区Ａ－５グリッドに位置する。形状は楕円形だが、ピットに近い。規模は長軸0.32m、短軸(0.18)m、深さ0.13m。主軸方位はN-17°-E。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.1mと浅く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

431号土坑(第14図、ＰＬ.13)

64区Ｏ－25グリッドに位置する。形状は円形。規模は径0.46m、深さ0.13m。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.1mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

432号土坑(第15図、ＰＬ.13)

64区Ｏ－25グリッドに位置する。西壁が調査区域外にのびるために形状は不明確だが、楕円あるいは不定形。規模は長軸(0.76)m、短軸0.64m、深さ0.28m。主軸方位はN-70°-W。分類は３類。重複関係は不明である。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

433号土坑(第15図、ＰＬ.13)

75区Ａ・Ｂ－５グリッドに位置する。形状はほぼ円形。規模は径(0.75)m、深さ0.63m。分類は３類。重複関係はない。床面はしっかりしているが、確認面の周縁に石が並ぶ。遺構確認面からの深さは約0.6mとやや深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁の一部がオーバーハングしている。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

434号土坑(第15図、ＰＬ.13)

64区Ｏ－24グリッドに位置する。形状は円形。規模は径0.74m、深さ0.18m。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

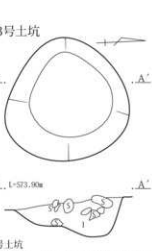
435号土坑(第15図、ＰＬ.14)

64区Ｏ－25、74区Ｏ－１グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.45m、短軸1.42m、深さ0.30m。主軸方位はN-88°-W。分類は３類。重複関係は438号土坑とで、438号土坑より新しい。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、東壁の下半部はほぼ垂直に立ち上がるが、西壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

422号土坑

422号土坑
1　黒色土　５～20cm大の礫を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

423号土坑

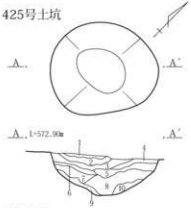


423号土坑
1　黒色土　５～20cm大の礫を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

424号土坑

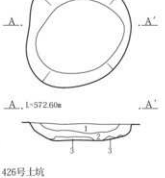
424号土坑
1　黒褐色土　黄橙色粒、白色粒を多量、黄褐色ブロック土を少量含む。
2　にぶい黄褐色土　白色粒を多量、黄橙色粒、黒褐色ブロック土を少量含む。

425号土坑



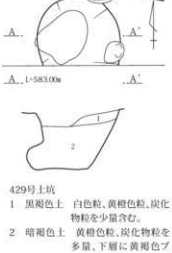
425号土坑
1　黒褐色土　白色粒を若干含む。均質上。銹分沈着が見られる。
2　灰白色土　シルト質。青灰(10YR6/1)ブロック土を少量含む。As-Kkか？
3　暗褐色土　黄橙色粒、白色粒を少量、炭化物粒を若干含む。
4　黒褐色土　３層と似ている。
5　黒褐色土　黄橙色粒、白色粒、炭化物粒を若干含む。
6　暗褐色土　やや明るい。黄橙色粒を少量、炭化物粒を若干含む。
7　暗褐色土　黄橙色粒、黒色ブロック土を少量含む。
8　にぶい黄褐色土　黄橙色粒、白色粒、炭化物粒を多量、黄褐色や黒色のブロック土を若干含む。
9　黄褐色土　砂質上。黒褐色ブロック土を少量含む。
10　黄褐色土　砂質上。黒褐色や暗褐色のブロック土を少量含む。

426号土坑



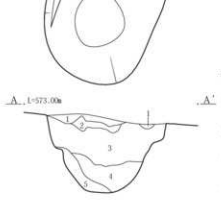
426号土坑
1　暗褐色土　白色粒、炭化物粒を若干含む。
2　にぶい黄褐色土　黄橙色粒、白色粒を少量、黄褐色ブロック土を若干含む。
3　黄褐色土　黄橙色粒を少量含む。
※　自然堆積。

429号土坑



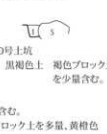
429号土坑
1　黒褐色土　白色粒、黄橙色粒、炭化物粒を少量含む。
2　暗褐色土　黄橙色粒、炭化物粒を多量、下層に黄褐色ブロック土を若干含む。縁辺には人頭大の亜円礫が見られる。縄文土器片出土。

427号土坑



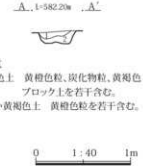
427号土坑
1　黒褐色土　白色粒を若干含む。
2　にぶい黄褐色土　黒色ブロック土を多量、黄橙色粒を若干含む。
3　暗褐色土　黄橙色粒、白色粒を多量、黄褐色ブロック土を若干含む。
4　黒褐色土　黄橙色粒、白色粒を多量、黄褐色ブロック土を少量含む。
5　にぶい黄褐色土　黄橙色粒、白色粒を少量、黒色ブロック土を少量含む。

430号土坑



430号土坑
1　黒褐色土　褐色ブロック土を少量含む。

431号土坑



431号土坑
1　黒褐色土　黄橙色粒、炭化物粒、黄褐色ブロック土を若干含む。
2　にぶい黄褐色土　黄橙色粒を若干含む。

0　1:40　1m

第14図　土坑（4）

436号土坑(第15図、ＰＬ.14)

64区Ｏ－25グリッドに位置する。形状は楕円形と推定される。規模は長軸(0.54)m、短軸0.66m、深さ0.20m。主軸方位はN-70°-W。分類は３類。重複関係は不明である。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

437号土坑(第15図、ＰＬ.14)

64区Ｑ・Ｒ－22グリッドに位置する。形状は円形。規模は径1.84m、深さ0.30m。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

438号土坑(第16図、ＰＬ.14)

74区Ｏ－１グリッドに位置する。435号土坑と重複しており、形状は不明である。規模は長軸0.80m、短軸(0.27)m、深さ0.27m。主軸方位は不明。分類は３類。重複関係は435号土坑とで、435号土坑より古い。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

439号土坑(第16図、ＰＬ.14)

75区Ｂ－５グリッドに位置する。形状は楕円形である。規模は長軸1.05m、短軸1.00m、深さ0.33m。主軸方位はN-37°-W。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

440号土坑(第16図、ＰＬ.14)

74区Ｙ－５グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.10m、短軸0.90m、深さ0.25m。主軸方位はN-85°-E。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

441号土坑(第16図、ＰＬ.14)

75区Ａ－４グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸0.88m、短軸(0.56)m、深さ0.40m。主軸方位はN-48°-W。分類は３類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.4mと浅く、西壁はほぼ垂直に立ち上がり、東壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層からⅤ層を中心としている。

２　ピット(第17・18図、ＰＬ．６・７・14・15)

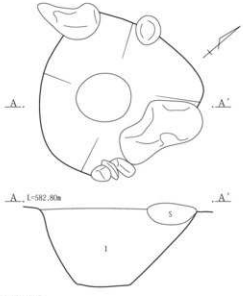
33基が検出されているが、遺構検出時の形状が円形や楕円形などと多岐にわたり、規模や深さ、断面や埋没土の様子からは、柱穴などの特定の遺構に分類することは判断出来なかった。

３　焼土

19号焼土(第18図、ＰＬ．８)

63区Ｃ－22グリッドに位置する。長軸0.88m、短軸0.32m、深さ0.14mの楕円形で、深さは0.1mと浅いものの、埋没土に多量の焼土を含むが、遺構の性格は不明である。

428 号土坑

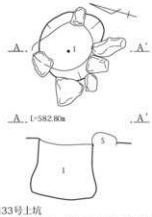


428号土坑
1　暗褐色土　白色粒、黄橙色粒を多量、明黄褐色砂質ブロック土を少量含む。縁辺には人頭大の亜円礫が見られる。縄文土器片出土。

432号土坑

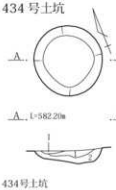
432号土坑
1　黒褐色土　黄橙色粒、黄褐色ブロック土を少量、白色粒、炭化物粒を若干含む。
2　にぶい黄褐色土　黄橙色粒、炭化物粒、黒色ブロック土を若干含む。

433号土坑



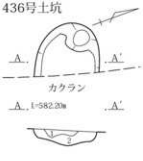
433号土坑
1　暗褐色土　白色粒、黄橙色粒、炭化物粒、褐色ブロック土を多量、1 cm大の亜円礫を若干含む。底部に礫有。

434 号土坑



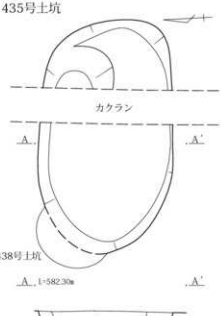
434号土坑
1　天明泥流堆積物
1　黒褐色土　黄橙色粒を多量に含む。
2　暗褐色土　黄橙色粒を多量、炭化物粒を若干含む。

436号土坑



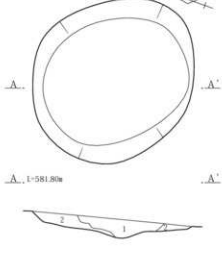
436号土坑
1　黒褐色土　黄橙色粒を若干含む。
2　にぶい黄褐色土　黄橙色粒を少量含む。

435号土坑



435号土坑
1　黒褐色土　黄橙色粒を多量、白色粒を少量、炭化物粒を若干含む。鉄分沈着あり。
2　黄褐色土　黒色ブロック土を多量に含む。
3　暗褐色土　黄橙色粒を少量含む。
4　にぶい黄　黄橙色粒を多量、白色粒を若干含む。

437号土坑

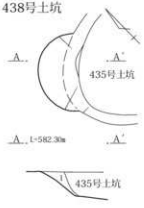


437号土坑
1　暗褐色土　黄褐色ブロック土を多量、黄橙色粒、白色粒、炭化物粒を若干含む。
2　黄褐色土　黄橙色粒を若干含む。

0　1:40　1m

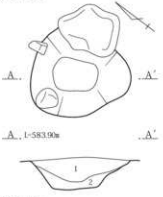
第15図　土坑（5）

438号土坑



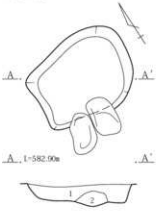
438号土坑
1　黒褐色土　黄橙色粒、炭化物粒、白色粒を少量含む。
※　435号土坑との切り合いだが435号土坑のほうが新しいと思われる。

439号土坑



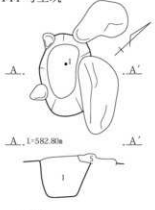
439号土坑
1　黒褐色土　黄橙色粒、1㎝大の亜円礫を若干含む。下層ほど褐色ブロック土を多く含む。
2　褐色土　黒色ブロック土を多量に含む。
※　人為埋没か。

440号土坑



440号土坑
1　黒褐色土　褐色ブロック土を少量含む。
2　黄褐色土　5～10㎝大の亜円礫、暗褐色ブロック土を多量に含む。

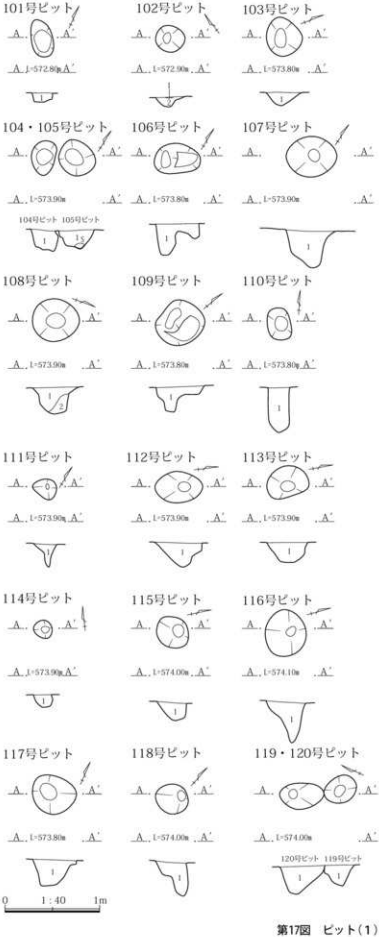
441号土坑



441号土坑
1　暗褐色土　炭化物粒を大量、白色粒、黄橙色粒、1㎝大の亜円礫を多量に含む。縄文土器片出土。

0　1:40　1m

第16図　土坑（6）



101号ピット
1　黒褐色土　黄褐色砂質ブロック土を多量、1㎝大の亜角礫、白色粒、黄橙色粒を少量含む。

102号ピット
1　As-A。
2　黒褐色土　やや明るい。赤褐色の鉄分沈着有。白色粒を少量含む。

103号ピット
1　黒褐色土　1～3㎝大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

104号ピット
1　黒褐色土　黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。

105号ピット
1　黒褐色土　黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。底部に亜円礫有。

106号ピット
1　黒褐色土　1～3㎝大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

107号ピット
1　黒褐色土　1～3㎝大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

108号ピット
1　黒褐色土　白色粒、黄橙色粒を多量に含む。鉄分沈着層有。
2　黄褐色土　砂質土、黒色ブロック土を少量含む。

109号ピット
1　黒褐色土　1～3㎝大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒、5㎝大の亜角礫を若干含む。

110号ピット
1　黒褐色土　1～3㎝大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

111号ピット
1　黒褐色土　黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。

112号ピット
1　黒褐色土　1～3㎝大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

113号ピット
1　黒褐色土　1～3㎝大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

114号ピット
1　黒褐色土　1～3㎝大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

115号ピット
1　黒褐色土　黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。

116号ピット
1　黒褐色土　黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。

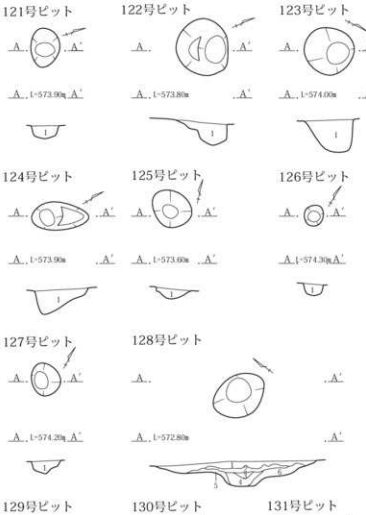
117号ピット
1　黒褐色土　1～3㎝大1～3㎝ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

118号ピット
1　黒褐色土　1～3㎝大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

119号ピット
1　黒褐色土　黄褐色ブロック土混じりの土。やや大きめの黄橙色粒を多量、白色粒を少量含む。

120号ピット
1　黒褐色土　黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。

第17図　ピット（1）



121号ピット
1　黒褐色土　黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。

122号ピット
1　黒褐色土　黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。

123号ピット
1　黒色土　縁辺には10cm大の亜角礫を多量に含む。白色粒、黄橙色粒を若干含む。

124号ピット
1　黒褐色土　１～３cm大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

125号ピット
1　黒褐色土　黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。

126号ピット
1　黒褐色土　黄褐色砂質ブロック土を多量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

127号ピット
1　黒褐色土　白色粒、黄橙色粒を若干含む。

128号ピット
1　黒褐色土　白色粒を若干含む。均質土。鉄分沈着が見られる。
2　灰白色土　シルト質。青灰ブロック土を少量含む。As-Kkか?
3　褐灰色土　白色粒を若干含む。
4　暗褐色土　黄橙色粒を多量に含む。
5　黒褐色土　炭化物粒を少量含む。
6　黄褐色土　黒色ブロック土、黄橙色粒を少量含む。
※　3、4層がピット埋没土。

129号ピット
1　黒褐色土　やや明るい。基本土層Ⅳに似ている。褐色土が混じる。白色粒、黄橙色粒を少量含む。

130号ピット
1　黒褐色土　やや明るい。基本土層Ⅳに似ている。褐色土が混じる。白色粒、黄橙色粒を少量含む。

131号ピット
1　黒褐色土　やや明るい。基本土層Ⅳに似ている。褐色土が混じる。白色粒、黄橙色粒を少量含む。

132号ピット
1　黒褐色土　やや明るい。基本土層Ⅳに似ている。褐色土が混じる。白色粒、黄橙色粒を少量含む。

133号ピット
1　黒褐色土　やや明るい。基本土層Ⅳに似ている。褐色土が混じる。白色粒、黄橙色粒を少量含む。

19号焼土
1　暗褐色土　根のカクラン。
2　黄褐色土　焼土、黒色ブロック土を少量含む。
3　暗褐色土　焼土ブロックを多量に混じる。
4　黄褐色土　黄砂質土主体。炭化物粒を少量、黒色ブロック土を若干含む。
5　暗褐色土　白色粒を少量、黄橙色粒を若干含む。

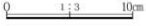
0　1：40　1m

第18図　ピット（２）・19号焼土

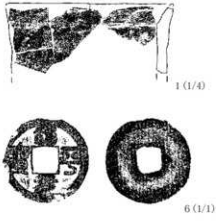
（２）出土遺物

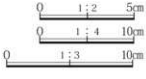
中近世の２面からは、中国・北宋の1064（嘉祐８）年に改号した1064（治平元）年に鋳造された『治平元寶』の篆書書体で発行した銭貨が出土している。

この他、Ｄ区から縄文時代中期後半の深鉢の土器の破片が４点出土している。

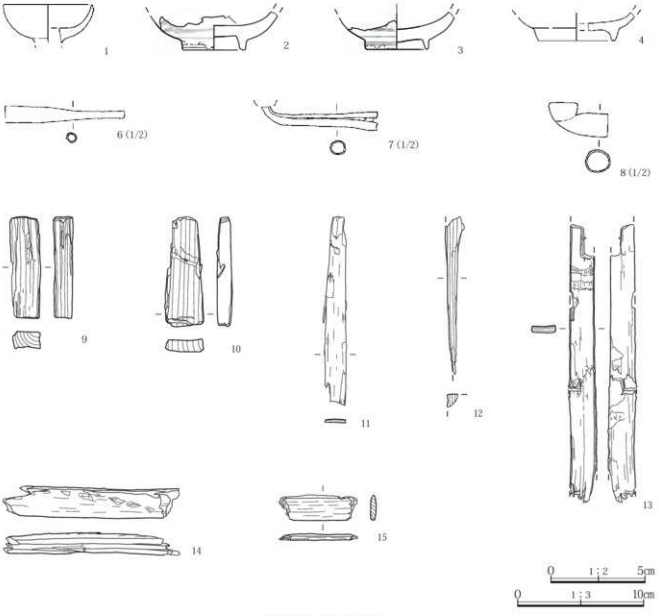


第 19 図　Ａ区出土遺物





第 20 図　Ｂ区出土遺物



第21図　C区出土遺物

第22図　D区出土遺物

第４章　まとめ

第１節　畑

本遺跡では、吾妻川左岸の中位段丘面である台地上のほぼ全域で天明三年(1783)の浅間山の大噴火に伴う泥流に覆われた畑が検出された。この天明泥流で埋没した家屋では、1980（昭和55)年に発掘調査された吾妻郡嬬恋村鎌原遺跡、農地としては1982（昭和57)年に発掘調査された渋川市中村遺跡で検出されて以来、浅間山の東に位置する碓氷川沿いの安中市や、利根川沿いの高崎市や前橋市にかけての地域を中心に、畑や水田などの生産基盤や居住空間である集落等が埋没した状態で検出されている。その県内での広がりは、北は渋川市、南は富岡市から藤岡市、東はみどり市の範囲にまで及んでいる。

本遺跡のある長野原町や西に隣接する東吾妻町でも、表１で分かるように、天明泥流で覆われた畑等が検出された遺跡が本遺跡と同様に、河岸段丘の中位面に相当する台地の全面に畑がほぼ広がっている状態が多数ある。特に、上郷岡原遺跡、下湯原遺跡や石川原遺跡では集落全域がそのままに検出されており、周辺地区と繋がる道や水路、さらには街道沿いの家屋が連なる様子も見て取れ、当時の景観を具体的に復元できる。

そして、その畑には畝の幅が30cmと50～70cmの２種類があり、これまでの所見から前者は麻で、後者は麻以外の他の種類と想定されている。上郷岡原遺跡での畑の一角からは、「根切り」・「葉切り」の工程で切り落とされたとみられる麻の根や葉が多量に出土した。このことから、泥流に埋まる直前の畑では、麻の収穫が始まっていたことが分かる。また、泥流になぎ倒された形で東側に向いた細い茎状の植物痕が吾妻川沿いのいくつもの遺跡で多数検出されている。

また、畑の地境には作業道や石垣等が設けられる事が多い。耕作に邪魔な石を山積みにした「ヤックラ」と呼ばれる集石遺構も地境際に設けられる事もある。

上郷岡原遺跡の所在する岩島地区は、古くから優良な麻の生産地として知られており、麻を利用した建物や広い麻畑の存在は、それらを具体的に物語る貴重な資料である。同様の中位段丘面に位置する本遺跡や石川原遺跡、下湯原遺跡等の長野原町地区の遺跡でも、同様な遺構が検出されており、麻の生産を想定できる。

一方、前回報告の母屋の室内の一角にある馬小屋の床に敷かれた木の葉や藁などが、馬の排出物と混ざり込んでいる状態で検出された。こうした有機質が畑に撒かれることで、悪化した畑の土壌を改善するための堆肥、つまり、肥料として利用される事例も認められる。

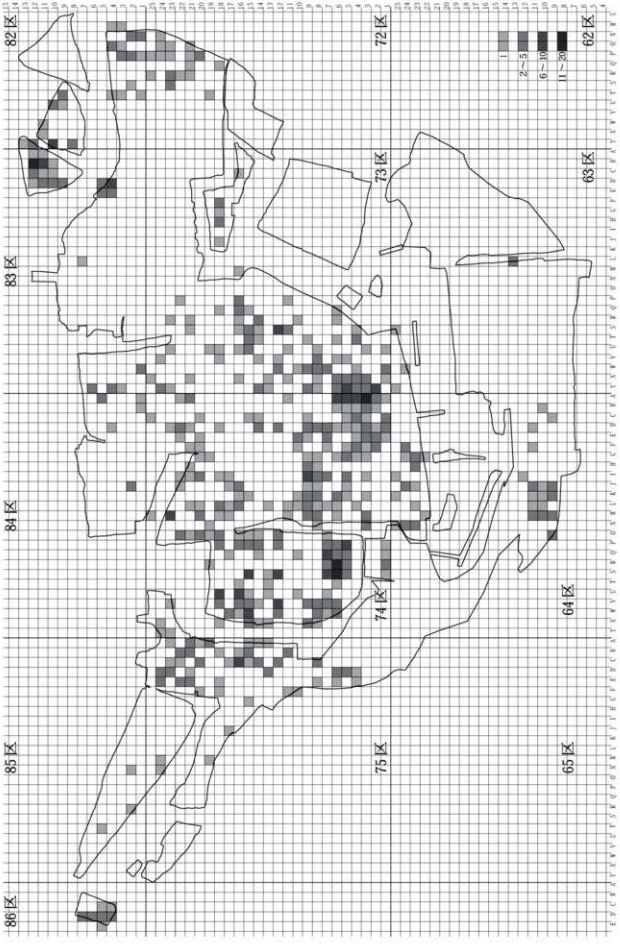
さらに、利用できる土地の有効利用を図るために、周辺での他の遺跡との比較を通して分かるように、台地の緩の傾斜変換線際まで畑に利用して、その中を規則的に区画する事で、生産性の向上を図っていたのが理解できる。

参考文献
関俊明『浅間山大噴火の爪痕－天明三年浅間災害遺跡』.新泉社. 2010
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編『自然災害と考古学』 上毛新聞社. 2013
八ッ場ダム発掘調査集成(１)東宮・石畑・川原湯勝沼・横壁勝沼・西久保Ⅰ・山根Ⅲ・下田・花畑・楡木Ⅲ・尾坂 （財)群埋文303集　2003
久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡 （財)群埋文319集　2003
久々戸遺跡(２)・中棚Ⅱ遺跡(２)・西ノ上・上郷Ａ遺跡 （財)群埋文349集　2004
下原遺跡Ⅱ （財)群埋文389集　2007
上郷岡原遺跡(１) （財)群埋文410集　2007
上郷岡原遺跡(２) （財)群埋文438集　2008
上郷Ａ遺跡(２) （財)群埋文473集　2009
東宮遺跡(１) （財)群埋文514集　2011
東宮遺跡(２) （財)群埋文536集　2012
町遺跡 （公財)群埋文593集　2014

表２　遺構数一覧表

	住居	掘立柱建物	建物	両墓墓	土坑	埋甕	焼土	石垣	畑	列石	取水施設	河道	石列	集石	暗渠	道	水場	円形遺構	溝	ピット
縄文	5				292	7	6			2										
弥生				1	28															
平安	11				55		2												2	132
中・近世		3			45		6												2	
江戸			4		4		1	9	321		1	1	2	1	1	21	1	1	16	

第23図　縄文土器出土分布図



第24図　近世陶磁器・在地土器出土分布図

表3　遺構一覧表

畑

号	区	面	平坦面	畝(本)	面積(m)	畝の方向	調査区	写真
0S6-1	72	1		4	15×1.8	北東-南西	A区	PL.1
0S6-2	72	1	0S6-2平	31	18×21	北東-南西	A区	PL.1
0S6-4	72	1		23	12×7	北東-南西	A区	PL.1
0S13-2	72・73	1		40	16×9	北東-南西	A区	PL.1
0S40	72	1		16	10×8	北東-南西	A区	PL.1
0S26-4	63・73	1		20	11×10	北東-南西	B区	PL.3
0S26-5	62・63	1		26	－	北東-南西(攪乱多)	B区	PL.3
0S26-7	63	1		25	18.5×9	北東-南西	B区	PL.3
0S26-8	63	1	0S26-8平	38	19×18.5	北東-南西	B区	PL.3
0S26-9	63	1	0S26-9平	21	19×11	北東-南西	B区	PL.3
0S26-10	63	1	0S26-10平	31	16×16	北東-南西	B区	PL.3
0S26-11	63	1		18	20×10	北東-南西(攪乱多)	B区	PL.3
0S26-12	63	1	0S26-12平	23	21×12	北東-南西	B区	PL.3
0S26-13	63	1	0S26-13平	16	21×9	北東-南西(攪乱多)	B区	PL.3
0S27-7	63	1		12	－	北西-南東(攪乱多)	B区	PL.3
0S32-5	63	1		13	5×5	東-西	C区	PL.9・10
0S32-4	63	1		12	12×5	東-西	C区	PL.9・10
0S32-6	63	1	0S32-6平	12	12×5	東-西	C区	PL.9・10
0S33	64	1	0S33平	9	－	東-西(攪乱多)	C区	PL.9・10
0S34-1	64	1		10	5×3	東-西	C区	PL.9・10
0S34-2	64	1		17	9×4	東-西	C区	PL.9・10
0S34-3	64	1	0S34-3平	24	14×12	東-西(攪乱多)	C区	PL.9・10
0S30	64・74	1		－	－	北西-南東	D区	PL.12
0S31	74・75	1		－	－	北西-南東	D区	PL.12
0S35	64	1		－	－	北西-南東	D区	PL.12
0S5-3	72・82	1		－	－	－	E区	PL.20-6・7
0S5-4	72	1		－	－	－	E区	PL.20-8
0S40	72	1		4	6.5×2.5	北東-南西	E区	PL.20-5

道

番号	区	面	グリッド	長さ(m)	幅(m)	走行方向	調査区	写真
20	72	1	R-15～18、S-16	11.40	0.30	北-南	A区	
21	62・63	1	X-21～23、Y-19～21 A-19、H-12、I-11・12、J-11、K-10・11	(32.00)	0.50	北東-南西	B区	
22	73	1	N～P-2	8.10	1.10	東-西	E区	PL.17-4
23	64	1	O～R-15	10.60	0.30	東-西	D区	PL.15-4・5、20-1
24	72	1	O-20	2.10	0.60	北東-南西	E区	PL.20-5・7・8
25	72	1	O-19・20、P-20	5.40	0.40	北西-南東	E区	PL.20-5

石垣

番号	区	面	グリッド	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	方向	調査区	写真
8	63	1	P-7、Q-7・8	6.20	0.30	4.90	北-南	C区	PL.10-8
9	64	1	P～R-15	9.00	0.60	0.80	東-西	D区	

土坑

番号	区	面	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主軸方位	形状	分類	新旧関係	調査区	写真
400	72	2	S-18	(150)	(124)	60	N-49°-W	隅丸長方形	1類		A区	PL.1-5
401	72	2	S-15・16、T-16	338	106	22	N-48°-W	隅丸長方形	1類		A区	PL.1-6・7
402	72	2	T・U-16	358	106	23	N-38°-W	隅丸長方形	1類		A区	PL.1-8・9
403	72	2	V-13	(125)	52	34	N-49°-W	隅丸長方形	1類		A区	PL.1-10
404	72	2	W-12	126	66	27	N-18°-W	隅丸長方形	2類		A区	PL.2-1・2
405	72	2	R-16・17、S-17	130	80	17	N-36°-E	楕円形	3類		A区	PL.2-3・4
406	72	2	U・V-16	98	85	20	N-42°-W	楕円形	3類		A区	PL.2-5・6
407	72	2	U・V-16	84	64	28	N-10°-W	楕円形	3類		A区	PL.2-7・8
408	72	2	W-14・15	212	74	15	N-40°-E	隅丸長方形	2類		A区	PL.2-9・10
409	63	2	H-15・16	532	82	39	N-30°-W	隅丸長方形	1類		B区	PL.4-4
410	63	2	I・J-14	210	124	50	N-65°-W	隅丸長方形	3類	411号土坑より新しい。	B区	PL.4-5・7
411	63	2	J-14	(45)	72	38	－	楕円形	3類	410号土坑より古い。	B区	PL.4-6・7
412	63	2	J-11	192	155	38	N-58°-W	不定形	3類		B区	PL.4-8・9
413	63	2	I・J-19・20	(114)	75	46	N-39°-E	隅丸長方形	1類		B区	PL.4-10・11
414	63	2	B-20・21	80	52	16	N-39°-E	楕円形	3類		B区	PL.5-1・2
415	63	2	B-20	100	74	16	N-44°-W	楕円形	3類		B区	PL.5-3・4
416	63	2	C・D-18	140	108	33	N-40°-E	楕円形	3類		B区	PL.5-5・6
417	63	2	I-21	48	42	20	N-52°-E	不定形	3類		B区	PL.5-7・8
418	63	2	I-22	76	58	23	N-88°-W	楕円形	3類		B区	PL.5-9・10
419	63	2	H-20	102	76	38	N-54°-W	隅丸長方形	3類		B区	PL.5-11・12
420	63	2	H-22	48	－	20		円形	3類		B区	PL.5-13・14
421	63	2	H-23・24	90	74	26	N-10°-E	楕円形	3類		B区	PL.5-15,6-1
422	63	2	F・G-18	60	－	23	－	円形	3類		B区	PL.6-2

番号	区	面	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主軸方位	形状	分類	新旧関係	調査区	写真
423	63	2	I-23	128	-	42	-	円形	3類		B区	PL.6-3・4
424	63	2	E-22・23	90	-	24	-	円形	3類		B区	PL.6-5・6
425	63	2	D・E-20	118	97	48	N-40°-E	楕円形	3類		B区	PL.6-7・8
426	63	2	C・D-22・23	122	113	21	N-10°-W	楕円形	3類		B区	PL.6-9・10
427	63	2	E-20・21	154	120	83	N-36°-W	楕円形	3類		B区	PL.6-11・12
428	75	2	B-4・5	174	-	80		円形	3類		D区	PL.13-1・2
429	75	2	B-4	87	(74)	63	N-43°-E	不定形	3類		D区	PL.13-3・4
430	75	2	A-5	32	(18)	13	N-17°-E	楕円形	3類		D区	PL.13-5～7
431	64	2	O-25	46	-	13	-	円形	3類		D区	PL.13-8・9
432	64	2	O-25	(76)	64	28	N-70°-W	楕円形か?	3類		D区	PL.13-10・11
433	75	2	A・B-5	(75)	-	63	-	円形	3類		D区	PL.13-12・13
434	64	2	O-24	74	-	18	-	円形	3類		D区	PL.13-14・15
435	64・74	2	O-25, O-1	245	142	30	N-88°-W	隅丸長方形	3類	438号土坑より新しい。	D区	PL.14-1・2
436	64	2	O-25	(54)	66	20	N-70°-W	楕円形	3類		D区	PL.14-3
437	64	2	Q・R-22	184	-	30	-	円形	3類		D区	PL.14-4・5
438	74	2	O-1	80	(27)	27	-	不明	3類	435号土坑より古い。	D区	PL.14-6・7
439	75	2	B-5	105	100	33	N-37°-W	楕円形	3類		D区	PL.14-8・9
440	74	2	Y-5	110	90	25	N-85°-E	隅丸長方形	3類		D区	PL.14-10・11
441	75	2	A-4	88	(56)	40	N-48°-W	隅丸長方形	3類		D区	PL.14-12・13

ピット

番号	区	面	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主軸方位	形状	調査区	写真
101	63	2	C-18	40	23	11	N-37°-N	楕円形	B区	PL.6-13
102	63	2	B-19	31	28	12	N-38°-W	円形	B区	PL.6-14
103	63	2	H-21	42	36	14	-	円形	B区	PL.6-15
104	63	2	I-22	38	26	23	N-29°-E	不定形	B区	PL.6-16
105	63	2	I-22	40	34	20	-	円形	B区	PL.7-1
106	63	2	I-22	49	32	41	N-55°-E	楕円形	B区	PL.7-2
107	63	2	I-22	53	43	42	N-56°-E	楕円形	B区	PL.7-3
108	63	2	H-22	50	44	29	N-21°-W	楕円形	B区	PL.7-4
109	63	2	H-22	50	45	27	N-0°	楕円形	B区	PL.7-5
110	63	2	H-22	35	25	48	N-13°-W	隅丸長方形	B区	PL.7-6
111	63	2	I-22	22	22	25	-	不定形	B区	PL.7-7
112	63	2	I-21	48	33	26	N-8°-E	楕円形	B区	PL.7-8
113	63	2	I-21	44	32	21	N-5°-W	楕円形	B区	PL.7-9
114	63	2	I-21	20	20	13	-	円形	B区	PL.7-10
115	63	2	H-21	34	32	20	N-17°-E	楕円形	B区	PL.7-11
116	63	2	H-20	50	42	49	-	円形	B区	PL.7-12
117	63	2	G・H-21	46	40	28	N-65°-E	円形	B区	PL.7-13
118	63	2	H-20	36	32	37	-	円形	B区	PL.7-14
119	63	2	H-20	34	28	21	N-70°-W	楕円形	B区	PL.7-15
120	63	2	H-20・21	47	28	28	N-24°-W	楕円形	B区	PL.7-16
121	63	2	G-21	40	30	14	N-58°-W	楕円形	B区	PL.7-17
122	63	2	G-21	60	54	28	-	円形	B区	PL.7-18
123	63	2	I-23	54	50	30	N-27°-W	円形	B区	PL.7-19
124	63	2	H-22	58	30	29	N-30°-W	楕円形	B区	PL.7-20
125	63	2	G-22	43	37	12	N-49°-W	楕円形	B区	PL.7-21
126	63	2	F-19	23	20	13	-	円形	B区	PL.7-22
127	63	2	F-19	35	30	14		円形	B区	PL.7-23
128	63	2	C-21	48	42	18	N-68°-W	楕円形	B区	PL.7-24
129	75	2	A-3	22	16	9	N-10°-E	楕円形	D区	PL.14-14
130	74	2	Y-3	27	26	5	-	円形	D区	PL.14-15
131	74	2	Y-3	66	54	14	N-46°-W	不定形	D区	PL.15-1
132	74	2	X-2	22	17	3	N-42°-W	楕円形	D区	PL.15-2
133	74	2	W-2	38	26	8	N-70°-E	不定形	D区	PL.15-3

焼土

番号	区	面	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主軸方位	形状	調査区	写真
19	63	2	C-22	88	32	14	N-82°-W	楕円形	B区	PL.8-1

表4　遺物観察表

A区

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	残存	出土位置	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/素材等	特徴	備考
第19図 PL.21	1	磁器・染付 碗	体～底部	畑	底:(6.0)	灰白色。	松と海辺か。	波佐見系

B区

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	残存	出土位置	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/素材等	特徴	備考
第20図 PL.21	1	軟質陶器 土釜	口縁部	12,15,16		褐・黒色粒。	口縁やや外反。	

遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	残存	出土位置	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/素材等	特徴	備考
第20図 PL.21	2	縄文上器 深鉢	底部	9.23	底:(7.2)	褐・黒色粒。	底面の剥がれが激しい。	
第20図 PL.21	3	陶器 擂鉢	体～底部	畑	底:(13.0)	白・褐色粒。	8本の櫛目。	常滑か。
PL.21	4	磁器・青磁 碗	体部	畑		灰白色。	輪花碗。	中国龍泉窯
PL.21	5	磁器・青磁 碗	体部	畑		白色。	輪花碗。	中国龍泉窯
第20図 PL.21	6	銭貨 治平元寶	完形	0S26-9号畑1	径:2.35、重:2.2		中国北宋1064年	

C区

挿図 PL.No	No	種類 器種	残存	出土位置	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/素材等	特徴	備考
第21図 PL.21	1	磁器・染付 小皿	口～体部	0S33号畑15	口:(3.5)	白色。	文様不明。	波佐見系
第21図 PL.21	2	磁器・染付 碗	体～底部	0S34-3号畑43	底:(5.0)	灰白色。	文様不明。	波佐見系
第21図 PL.21	3	磁器・染付 碗	体～底部	0S33号畑22	底:(5.0)	灰白色。	文様不明。	波佐見系
第21図 PL.21	4	磁器・染付 碗	底部	0S33号畑13	底:(6.0)	灰白色。		
PL.21	5	磁器・染付 小皿	口縁部	0S33号畑41		白色。	波状口縁。化粧用の皿。	
第21図 PL.21	6	金属製品 煙管・吸口	完形	0S33畑42	長:6.3、幅:0.9 厚:0.05、重:3.7			
第21図 PL.21	7	金属製品 煙管・雁首	火皿欠損	溝2	長:(6.2)、重:4.5		2類。	
第21図 PL.21	8	金属製品 煙管・雁首	完形	5号トレンチ	長:3.0、幅:1.2 厚:0.06、重:5.7		4類。	
第21図 PL.21	9	木片		畑			柾目か。	
第21図 PL.21	10	木片		畑			柾目。	
第21図 PL.21	11	木皮		畑				
第21図 PL.21	12	木片		0S33号畑34				
第21図 PL.21	13	木片		0S33号畑29			柾目。	
第21図 PL.21	14	木片		0S33畑12			柾目。	
第21図 PL.21	15	木片		0S33号畑25			柾目か。	
PL.21	16	木片		0S33畑14				
PL.21	17	種子	欠損	畑	長:2.47、幅:1.98		18と同個体。	桃
PL.21	18	種子	欠損	畑	長:(2.55)、幅:(1.97)		17と同個体。	桃
PL.21	19	種子	欠損	0S33号畑19	長:(2.41)、幅:1.86		20と同個体。	桃
PL.21	20	種子	欠損	0S33号畑19	長:(2.40)、幅:1.88		19と同個体。	桃
PL.21	21	種子	欠損	0S33号畑5	長:2.92、幅:(2.07)			桃
PL.21	22	種子	欠損	0S34-1号畑40	長:(2.56)、幅:(2.09)			桃
PL.21	23	種子	欠損	畑	長:(2.41)、幅:(1.84)			桃
PL.21	24	種子	欠損	0S33号畑24	長:(2.58)、幅:(1.65)			桃
PL.21	25	種子	欠損	畑	長:(2.23)、幅:(2.28)			胡桃
PL.21	26	種子	欠損	畑	長:1.34、幅:(1.05)			?
PL.21	27	松笠		0S32-6号畑3				
PL.21	28	松笠		0S34-3号畑44				

D区

挿図 PL.No	No	種類 器種	残存	出土位置	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/素材等	特徴	備考
第22図 PL.21	1	縄文上器 深鉢	胴部	428号土坑		白・黒・褐色粒。砂礫多い。	隆線。櫛目文。	
第22図 PL.21	2	縄文上器 深鉢	口縁部	433号土坑1		白・黒・褐色粒。	沈線。内面横撫で。	
第22図 PL.21	3	縄文上器 深鉢	胴部	441号土坑1		白・黒・褐色粒。砂礫。	隆線・沈線区画。縄文。	加曽利E式
第22図 PL.21	4	縄文上器 深鉢	胴部			白・褐色粒。砂礫。	櫛目文。内外横撫で。	

写 真 図 版

1．A区１面全景(南から)

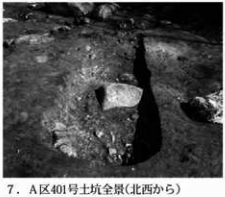
2．A区１面全景(北から)

3．A区20号道全景(南西から)

4．A区２面全景(南西から)

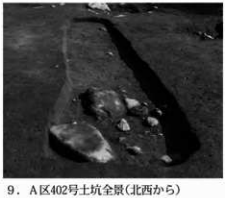
5．A区400号土坑・１号壁セクション
(南東から)

6．A区401号土坑セクション(北西から)



7．A区401号土坑全景(北西から)

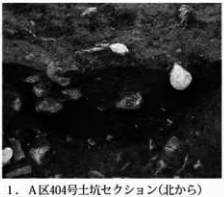
8．A区402号土坑セクション(北西から)



9．A区402号土坑全景(北西から)

10．A区403号土坑セクション(北西から)

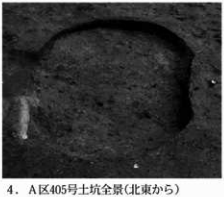
PL.2



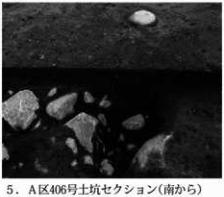
1．A区404号土坑セクション(北から)

2．A区404号土坑全景(北から)

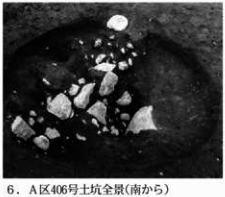
3．A区405号土坑セクション(南西から)



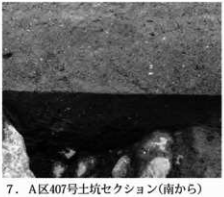
4．A区405号土坑全景(北東から)



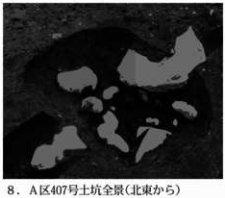
5．A区406号土坑セクション(南から)



6．A区406号土坑全景(南から)

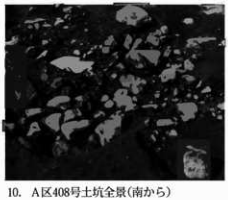


7．A区407号土坑セクション(南から)

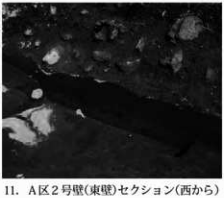


8．A区407号土坑全景(北東から)

9．A区408号土坑セクション(南西から)



10．A区408号土坑全景(南から)



11．A区２号壁(東壁)セクション(西から)

12．A区３号壁(東壁)セクション(西から)

1．B区１面北部(南東から)

2．B区１面北西部(北西から)

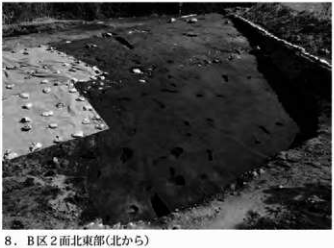
3．B区１面北西部(南から)

4．B区１面中央部(北東から)

5．B区１面中央部(北から)

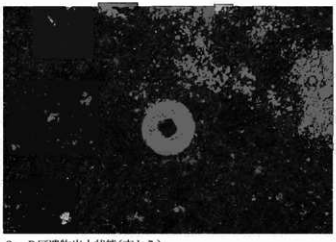
6．B区２面全景(南から)

7．B区２面北部(南西から)



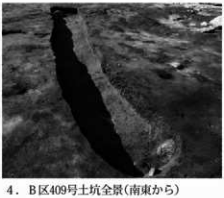
8．B区２面北東部(北から)

1．B区２面南部(南西から)



2．B区遺物出土状態(南から)

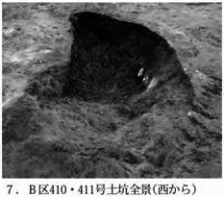
3．B区409号土坑セクション(南東から)



4．B区409号土坑全景(南東から)

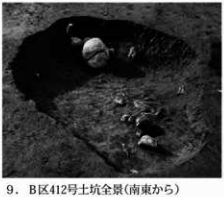
5．B区410号土坑セクション(西から)

6．B区411号土坑セクション(南から)



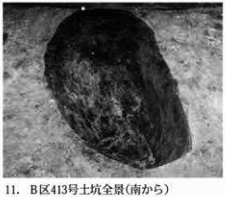
7．B区410・411号土坑全景(西から)

8．B区412号土坑セクション(北東から)



9．B区412号土坑全景(南東から)

10．B区413号土坑セクション(北東から)

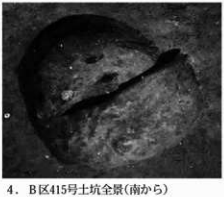


11．B区413号土坑全景(南から)

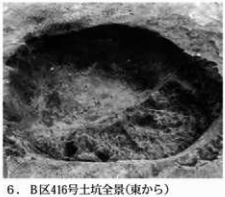
1．B区414号土坑セクション(南西から)

2．B区414号土坑全景(南東から)

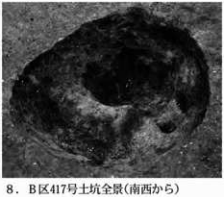
3．B区415号土坑セクション(南東から)


4．B区415号土坑全景(南から)

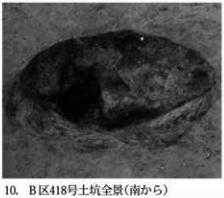
5．B区416号土坑セクション(西から)

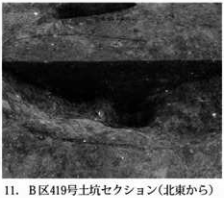

6．B区416号土坑全景(東から)

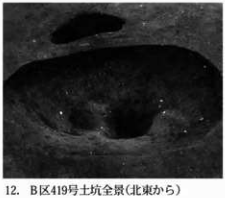
7．B区417号土坑セクション(南東から)


8．B区417号土坑全景(南西から)

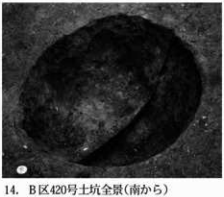
9．B区418号土坑セクション(南から)


10．B区418号土坑全景(南から)


11．B区419号土坑セクション(北東から)


12．B区419号土坑全景(北東から)

13．B区420号土坑セクション(南西から)

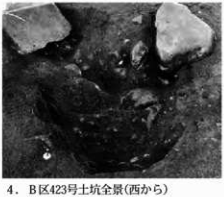

14．B区420号土坑全景(南から)

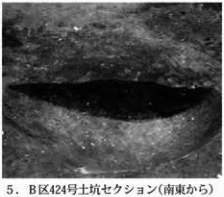
15．B区421号土坑セクション(西から)

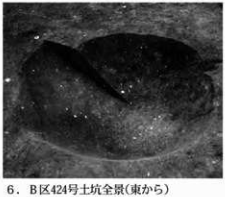
1．B区421号土坑全景(東から)

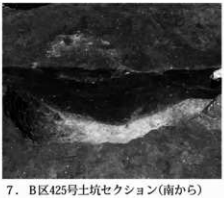
2．B区422号土坑セクション(南から)

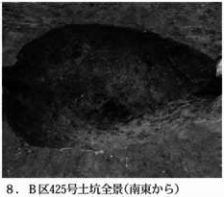
3．B区423号土坑セクション(東から)


4．B区423号土坑全景(西から)


5．B区424号土坑セクション(南東から)


6．B区424号土坑全景(東から)

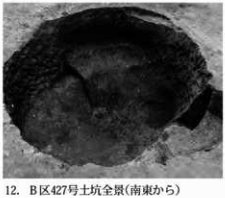

7．B区425号土坑セクション(南から)


8．B区425号土坑全景(南東から)

9．B区426号土坑セクション(南東から)

10．B区426号土坑全景(南から)

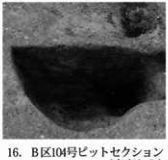
11．B区427号土坑セクション(南から)


12．B区427号土坑全景(南東から)

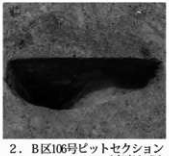
13．B区101号ピットセクション(北から)

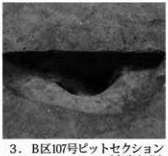
14．B区102号ピットセクション(南西から)

15．B区103号ピットセクション(東から)

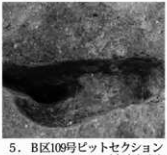

16．B区104号ピットセクション(南東から)

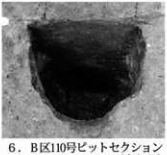
1．B区105号ピットセクション（南東から）


2．B区106号ピットセクション（南東から）


3．B区107号ピットセクション（南東から）

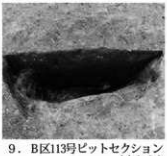
4．B区108号ピットセクション（東から）

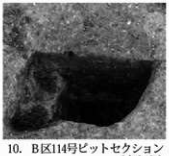

5．B区109号ピットセクション（南東から）

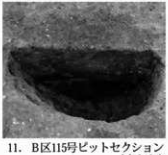

6．B区110号ピットセクション（南から）

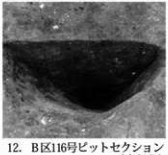
7．B区111号ピットセクション（南東から）

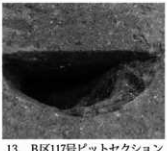
8．B区112号ピットセクション（東から）


9．B区113号ピットセクション（東から）

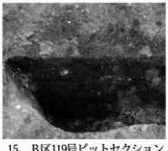

10．B区114号ピットセクション（南から）


11．B区115号ピットセクション（東から）

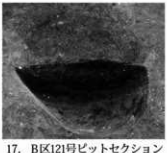

12．B区116号ピットセクション（東から）

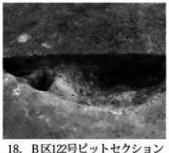

13．B区117号ピットセクション（南東から）

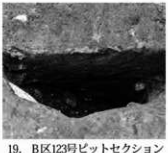
14．B区118号ピットセクション（南東から）


15．B区119号ピットセクション（北東から）

16．B区120号ピットセクション（北東から）

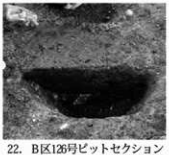

17．B区121号ピットセクション（東から）

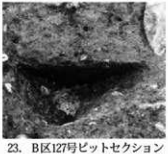

18．B区122号ピットセクション（北西から）


19．B区123号ピットセクション（東から）

20．B区124号ピットセクション（南東から）

21．B区125号ピットセクション（南から）


22．B区126号ピットセクション（南東から）


23．B区127号ピットセクション（南東から）

24．B区128号ピットセクション（南西から）

1．B区19号焼土セクション(北から)

2．B区１号壁(西壁)セクション(南東から)

3．B区２号壁(西壁)セクション(南東から)

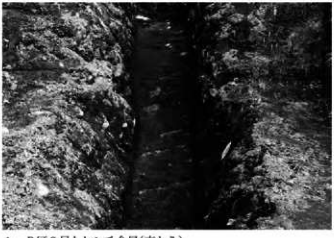
4．B区３号壁(西壁)セクション(東から)

5．B区４号壁(北壁)セクション(南から)

6．B区５号壁(東壁)セクション(西から)

7．B区６号壁(南東壁)セクション(北西から)

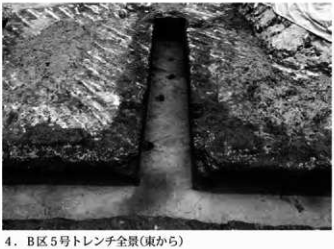
8．B区１号トレンチ全景(西から)



1．B区２号トレンチ全景(南から)

2．B区３号トレンチ全景(南から)

3．B区４号トレンチ全景(東から)



4．B区５号トレンチ全景(東から)

5．C区全景(南から)

6．C区西部(南から)

7．C区西部(西から)

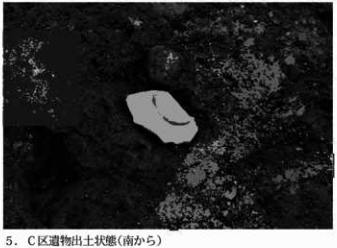
8．C区東部(東から)

1．C区耕作痕(北から)

2．C区拡張部(西から)

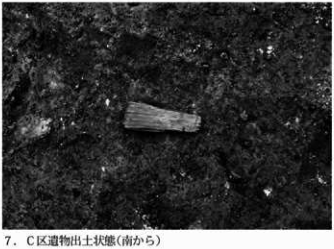
3．C区拡張部(東から)

4．C区8号石垣全景(西から)



5．C区遺物出土状態(南から)

6．C区遺物出土状態(南から)



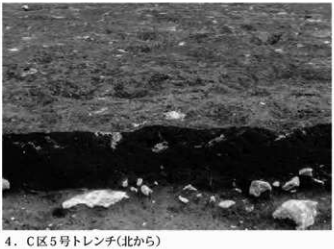
7．C区遺物出土状態(南から)

8．C区8号石垣・1号トレンチセクション(南から)

1．C区2号トレンチ全景(南西から)

2．C区3号トレンチ全景(東から)

3．C区4号トレンチ(北から)



4．C区5号トレンチ(北から)

5．C区6号トレンチ(西から)

6．C区7号トレンチ(南から)

7．C区8号トレンチ(東から)

1．D区１面北西部(東から)

2．D区１面北西部(北西から)

3．D区２面北西部(西から)

4．D区２面北西部(東から)

5．D区１面北東部(東から)

6．D区２面北東部(東から)

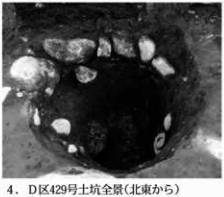
7．D区１面南部(東から)

8．D区１面南部(東から)

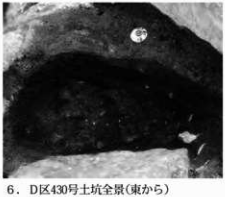
1．D区428号土坑セクション(南西から)

2．D区428号土坑全景(北東から)

3．D区429号土坑セクション(北東から)

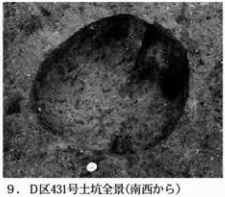

4．D区429号土坑全景(北東から)

5．D区430号土坑セクション(北から)

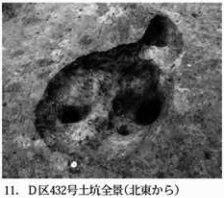

6．D区430号土坑全景(東から)

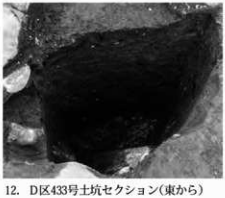
7．D区430号土坑完掘(南から)

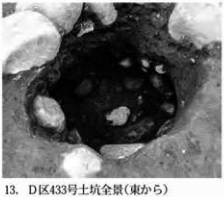
8．D区431号土坑セクション(南東から)


9．D区431号土坑全景(南西から)

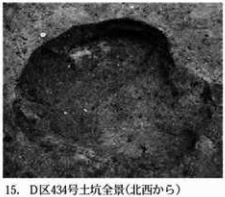
10．D区432号土坑セクション(北から)


11．D区432号土坑全景(北東から)


12．D区433号土坑セクション(東から)


13．D区433号土坑全景(東から)

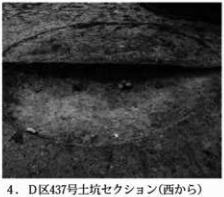
14．D区434号土坑セクション(北から)

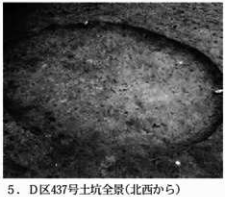

15．D区434号土坑全景(北西から)

1．D区435号土坑セクション(西から)

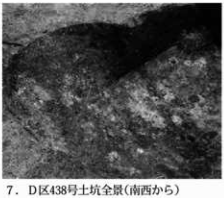
2．D区435号土坑全景(西から)

3．D区436号土坑セクション(東から)


4．D区437号土坑セクション(西から)


5．D区437号土坑全景(北西から)

6．D区438号土坑セクション(南西から)


7．D区438号土坑全景(南西から)

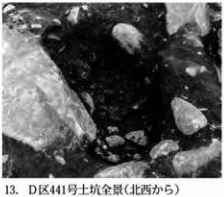
8．D区439号土坑セクション(北から)

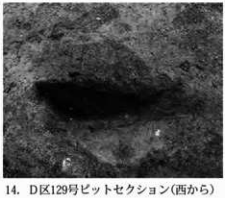
9．D区439号土坑全景(北東から)

10．D区440号土坑セクション(南西から)

11．D区440号土坑全景(南から)

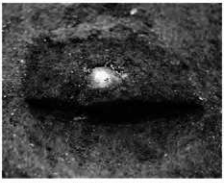
12．D区441号土坑セクション(北西から)


13．D区441号土坑全景(北西から)

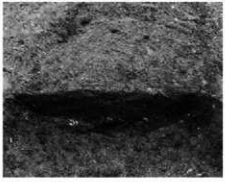

14．D区129号ピットセクション(西から)

15．D区130号ピットセクション(南から)

1．D区131号ピットセクション(南から)



2．D区132号ピットセクション(南東から)



3．D区133号ピットセクション(南東から)

4．D区23号道全景(南から)

5．D区23号道セクション(東から)

6．D区１号壁セクション(南から)

7．D区１号トレンチ(南東から)

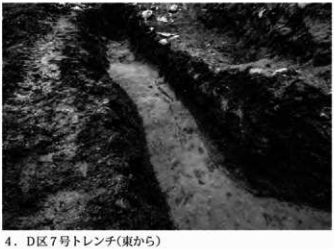
8．D区２号トレンチ(南東から)

9．D区３号トレンチ(南東から)

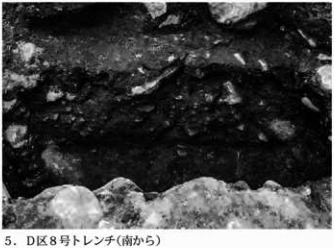
1．D区４号トレンチ(南東から)

2．D区５号トレンチ(南西から)

3．D区６号トレンチ(東から)



4．D区７号トレンチ(東から)



5．D区８号トレンチ(南から)

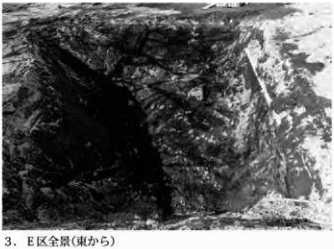
6．D区９号トレンチ全景(北から)

7．D区10号トレンチ全景(南から)

8．D区11号トレンチ全景(東から)

1．D区12号トレンチ全景(東から)

2．E区全景(西から)



3．E区全景(東から)

4．E区22号道(西から)

5．調査準備風景(南から)

6．A区調査風景(西から)

7．A区1面畑調査風景(南から)

8．B区1面掘削作業風景(南から)

1．B区１面調査風景(北東から)

2．B区１面畑調査風景(南西から)

3．B区２面調査風景(北西から)

4．B区409号土坑調査風景(北から)

5．B区２号トレンチ調査風景(南から)

6．B区北西部埋め戻し作業風景(北から)

7．C区１面調査風景(西から)

8．C区１面西部調査風景(南から)

1．C区１面東部調査風景(北から)

2．C区１面東部畑調査風景(北西から)

3．C区２号トレンチ調査風景(西から)

4．C区５・６号トレンチ調査風景(北から)

5．D区表土掘削風景(東から)

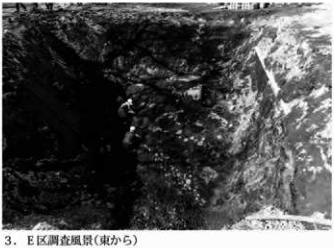
6．D区南部表土掘削風景(東から)

7．D区北西部測量作業風景(東から)

8．D区北西部調査風景(東から)

1．D区南部23号道調査風景(南から)

2．E区１面掘削作業風景(北から)



3．E区調査風景(東から)

4．E区掘削状況(南西から)

5．E区40畑、24・25号道検出状況(南から)

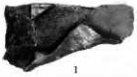
6．E区１号トレンチ：5-3畑検出状況(南から)

7．E区２号トレンチ：5-3畑、24号道検出状況(西から)

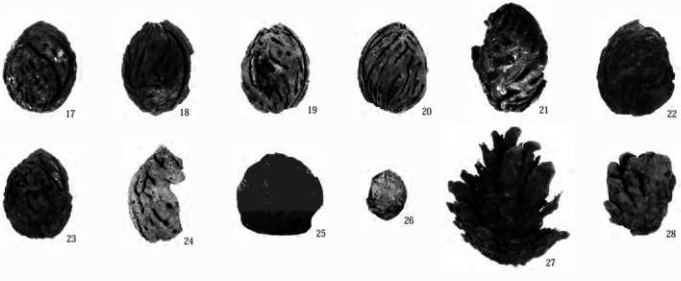
8．E区３号トレンチ：5-4畑、24号道検出状況(西から)

A区出土遺物

B区出土遺物



C区出土遺物



D区出土遺物

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第638集

尾坂遺跡（３）

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第56集

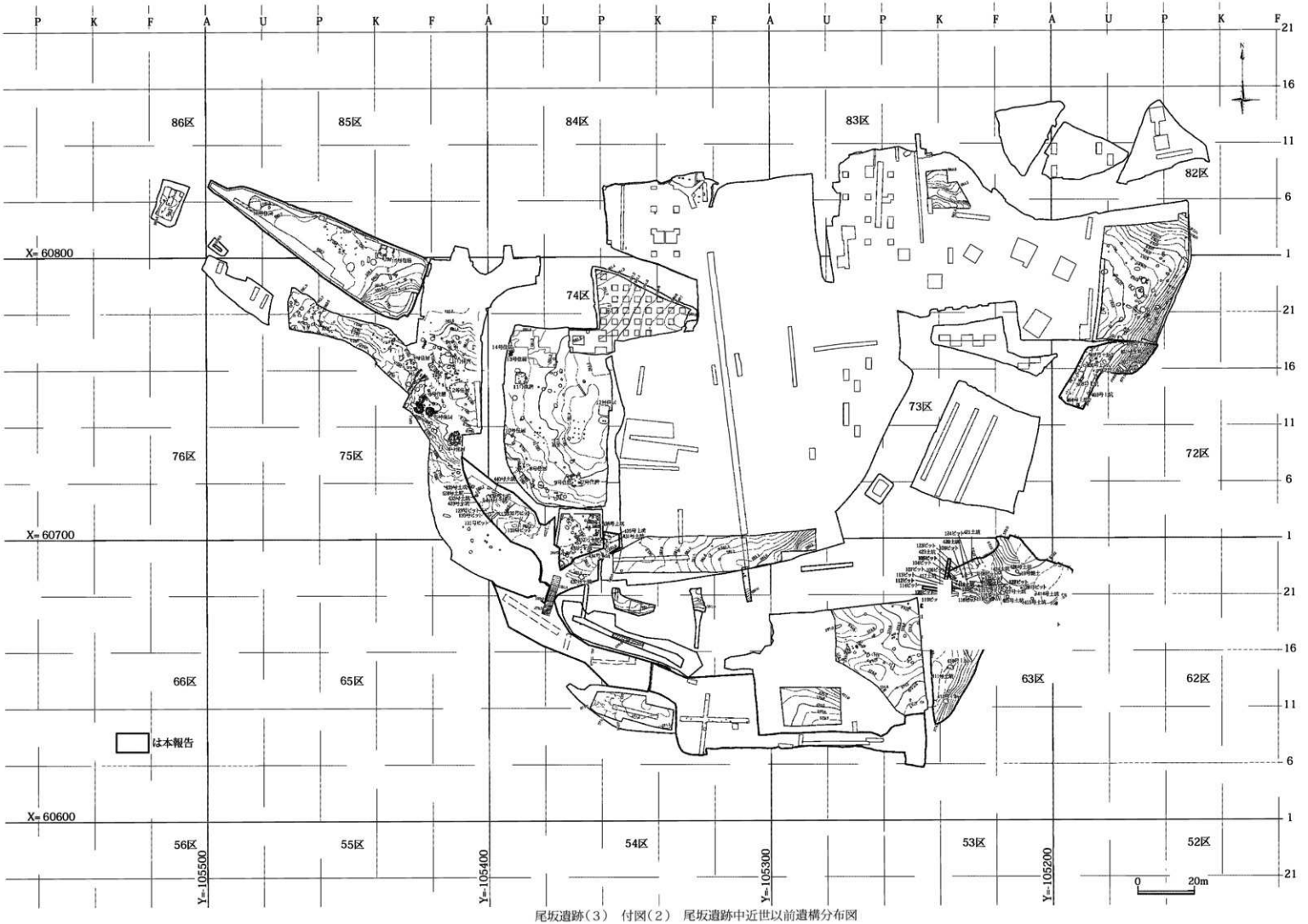
平成30(2018)年３月９日　印刷
平成30(2018)年３月15日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

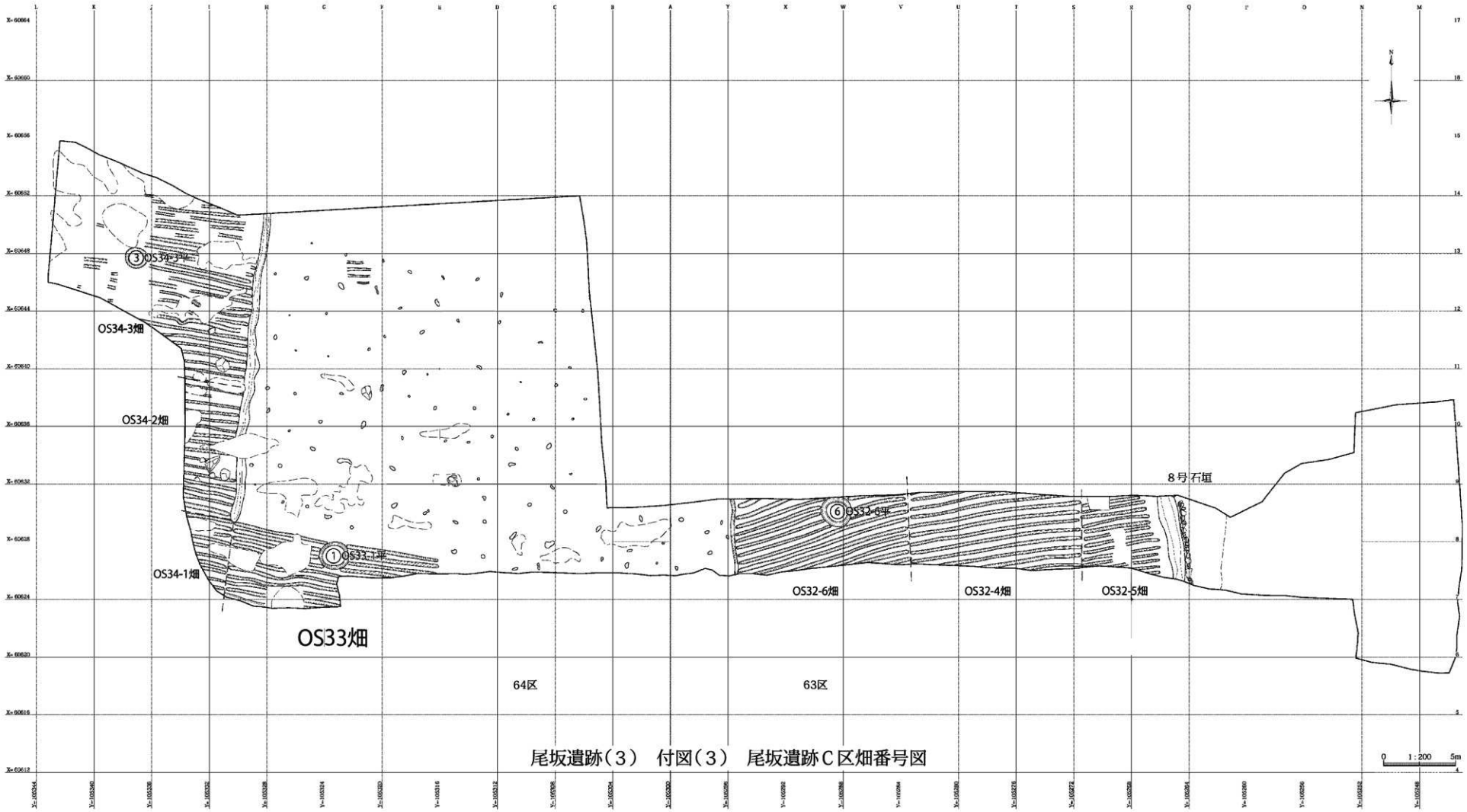
〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／川島美術印刷株式会社

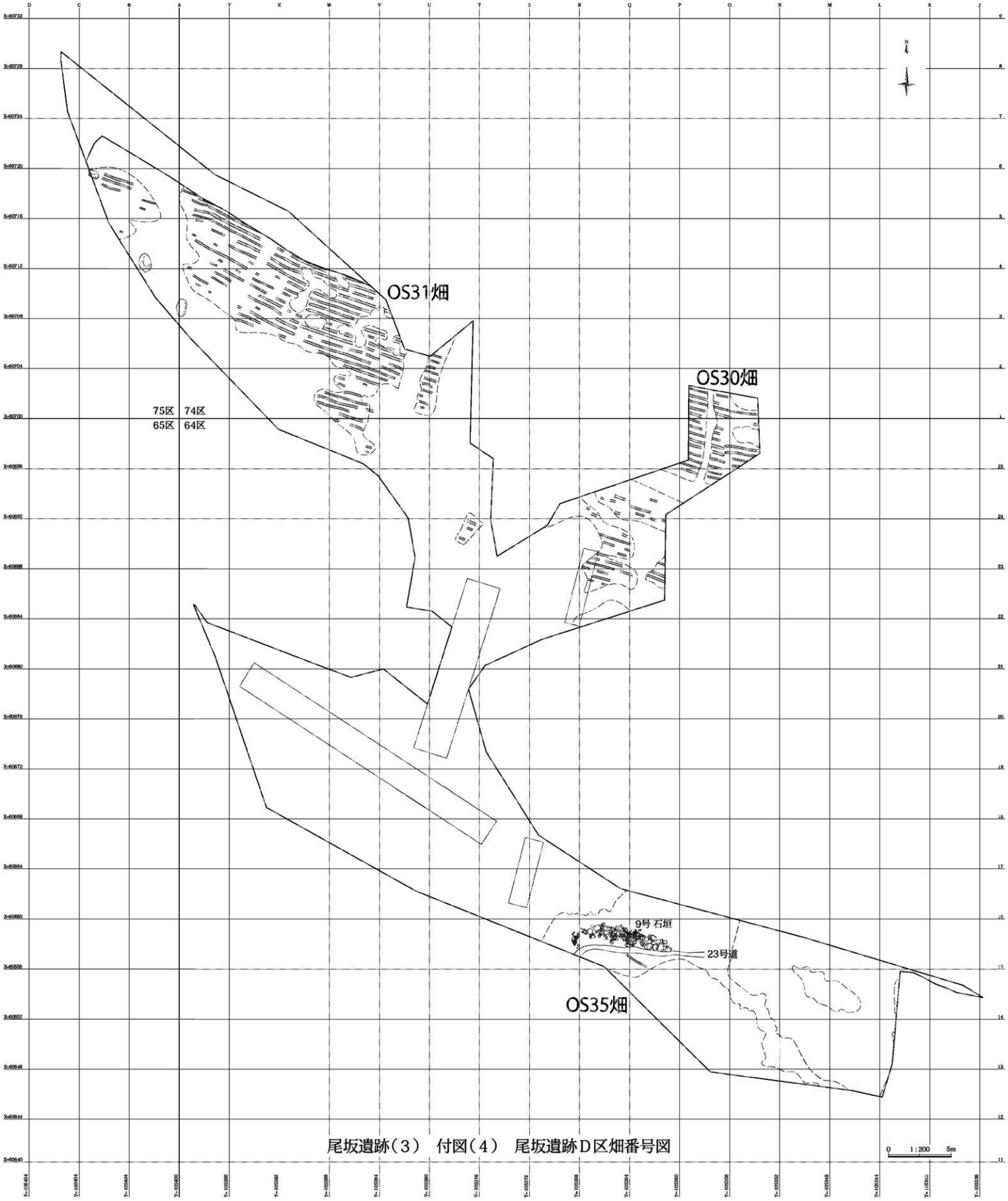
尾坂遺跡(3)　付図(1)　尾坂遺跡第1面(天明泥流)遺構分布図



尾坂遺跡(3) 付図(2) 尾坂遺跡中近世以前遺構分布図



尾坂遺跡（3） 付図（3） 尾坂遺跡C区畑番号図



尾坂遺跡（3） 付図（4） 尾坂遺跡D区畑番号図